

平成6年度農林水産補助事業  
木材技術専修センター事業  
木造建築担い手育成事業

# 平成6年度木材技術専修センター事業 研修企画運営委員会報告書

平成7年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター



平成6年度農林水産補助事業  
木材技術専修センター事業  
木造建築担い手育成事業

# 平成6年度木材技術専修センター事業 研修企画運営委員会報告書

平成7年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター



## はじめに

「21世紀の住宅建設を考える」といっても、既に後10年をきるといった時代の中で、木造住宅建設の将来は決して楽観しうる状況にありません。

その理由の一つとして、人口構造の高齢化、出産人口の減少などからくる絶対的な労働者不足の問題があり、今後わが国の社会経済がさらに発展していくと、その労働人口の多くは第3次産業に吸収されてしまうだろうと予測されています。

こうした状況の中で、木造住宅供給の中心的担い手である大工技能者の不足と新規入職希望者の減少及び建築物に対する需要の多様化、高度化等、いわゆる需要環境の変化に対する対応力の問題は今後さらに大きな課題となると考えられます。

そして、このことは同時に、木造住宅に関連する資材供給を目標に生長を続けている国内林業への影響も懸念されるところであります。

このような背景のもとに、平成3年度より木材技術専修センター事業が発足し、大工・工務店が高循環な事業環境を再構築し、木造建築の担い手を育成するうえで必要な次の事項に重点をおき、全国各地で研修会等を実施してまいりました。

- ①新規入職者への対応
- ②大工・工務店に対し新知識・新情報の提供
- ③ 〃 の経営手法のあり方
- ④ 〃 の後継者育成対策
- ⑤木構造設計技術の向上

これまでの実施状況をみますと、過去4カ年間で実に15,000人が参加しており、このような試みが、多くの担い手側に新しい知識や情報をもたらしたのではないかと思います。

本事業が「地域に根ざし、木造住宅建築担い手育成の柱の一つ」に育っていくことを願い、より効果的な運営を図りたいと考えておりますので、実施機関関係各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年度の「木造建築担い手育成研修」の実施にあたり、ご指導ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター  
理事長 下川 英雄

## 目次

はじめに	1
まえがき	3
委員会名簿	4
第1章 木材技術専修センター・平成6年度実施研修会	5
1. 木材技術専修センター事業概要	5
1-1. 背景及び主旨	5
1-2. 事業の内容及び実施事項	5
1-3. 木造建築担い手育成研修	5
1-4. 木構造設計技術向上講習会	8
2. 木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修	9
2-1. カリキュラムの種類	9
2-2. 本年度カリキュラム企画について	9
2-3. 本年度の事業実績	12
木造建築担い手育成研修プログラム	15
木構造設計技術向上講習プログラム	33
第2章 受講者アンケート結果から見る専修センター事業	36
1. 受講者の男女比	36
2. 受講者年齢	36
3. 受講者の業種	37
4. 従事している仕事	37
5. 取得している資格	37
6. 受講者の立場	38
7. 取り扱っている建築構造の種類	38
8. 1年間に取り扱った住宅棟数（軸組）	38
9. 研修全体への評価	39
10. 来年度の研修希望と研修テーマ	40
11. 研修実施時期と期間	41
第3章 研修事業の問題点の検討	47
1. 研修事業の継続性	47
2. 研修事業の意味	47
3. 研修事業の方向性	47
4. 地域主催者の役割	48
5. 波及効果	48
参考資料	51
参考資料1. 「東濃ひのきの家」と産地・加子母村	52
参考資料2. 東濃ひのきの家プレカット協同組合 「第2プレカット工場概要」	58

## まえがき

かなり漠としたものではあるが、手工的熟練の再評価、再興の気運が近年強くなっているように思われる。

戦後、我々が経験した産業経済の変化と成長は激しいものであったが、なかでも戦後各時期での主導産業の交替は今振り返ってみるとかなりめまぐるしい。敗戦間もなくの混乱の中で一番景気よかったのは石炭と繊維だった。当時の大企業といわれたのは、この2業種。当時の売上高上位ランキングには東洋紡、鐘紡、以下、三井鉱山、三菱鉱業等が入っている。学校の成績のいい者はこうした企業に入った。

その次は鉄鋼、石油化学だった。これらが60年代から第1次石油ショックにいたる高度成長のリーディングインダストリーで、重厚長大の代表である。次いで70年代後半から80年代後半まで、戦後最長の景気後退期といわれた時期、主として輸出をもって日本経済を支えたのは自動車と電機だった。

現在、戦後50年を支えたこれらの産業はどうか？ 大手繊維産業は上位企業100社からほとんど消えている。かつて1億トン以上の素鋼生産を唱えていた鉄鋼業はレジャーランド、老人ホーム、通信販売までを手掛けている。石油化学は環境制約に悩む。自動車・電機は通商摩擦と円高、国内需要の成熟ですでにその成長の限界に達している。日本はいまや輸入国ですらある。

今後、当面の経済を主導する産業は必ずしも明らかになっていない。エレクトロニクス、マルチメディア……。平成景気いわゆるバブルの崩壊以後、成長は低迷し、先行きの見通しもはっきりせず、求人倍率は下がっている。

こうした状況で、いわゆるハイテクと並んでローテクともいえる手工的熟練もまた期待される。例えば経済的効率だけでなく品質等も含めた効果的な製品、環境汚染を生じない生産活動、機械的な単調労働ではなく人間的な労働、人間の手で初めてできる製品の質、地域的な文化と伝統の尊重など、手工的生産は豊かさの枢みにある社会で積極的な意味を持つ。

木造建築担い手育成研修は4年度目である平成6年も18都県で集団研修の形で行われ、実人員1,020人が参加している。

阪神大震災以後、在来木造建築の一層の防災性強化のため、研修にも新しい内容が加えられようとしている。

産業構造の見直しの一環として、我々は建築生産の分野での手工的熟練部門の再興に、多様な形式のもとに継続的な努力をはらっていかねばならない。

研修企画運営委員会  
委員長 古川 修

## 研修企画運営委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

委員長	古川	修	(財)建築コスト管理システム研究所	理事長
委員	太田	邦夫	東洋大学工学部建築学科	教授
	藤澤	好一	芝浦工業大学工学部建築工学科	教授
	谷	卓郎	職業能力開発大学校建築工学科	教授
	吉沢	健	(社)全国中小建築業団体連合会	常務理事
	西谷	嘉寿夫	(社)全国木材組合連合会	専務理事
	中村	喜三郎	(社)日本建築大工技能士会	専務理事
	野辺	公一	(株)オプコード研究所	代表取締役
	林	裕司	全国建設労働組合総連合技術対策部	副部長
協力委員	長江	恭博	林野庁林政部林産課	課長補佐
	臼井	浩一	〃	〃
	瀬戸口	満	建設省住宅局木造住宅振興室	課長補佐
	佐治	孝利	〃	係長



# 第1章 木材技術専修センター・平成6年度実施研修会

## 1. 木材技術専修センター事業概要

### 1-1. 背景及び主旨

わが国の木材需要中枢は建築用材であり、今後充実してくる国産材資源を有効利用していくためには、木造住宅の振興が緊要の課題となっている。

しかしながら、木造住宅を取り巻く状況は、木造住宅建築の担い手である大工技能者の労働力不足が顕在化し、また若年労働力の減少と高齢化が進むなかで技能の衰えが懸念されるなど、現状の木造住宅供給組織の先行きには深刻なものがあり、諸般の対策が望まれているところである。

現状をふまえ本事業においては、木造住宅建設の担い手の育成に重点をおき、新規参入者の育成、現存技能者のレベル向上に役立つ研修のほか木構造設計技術講習を実施し、ひいては、地域における国産材資源の有効な利用促進に資するものとする。

### 1-2. 事業の内容及び実施事項

地域材住宅部材化活動促進事業

事業主体：(財)日本住宅・木材技術センター

#### 1-2-1. 木材技術専修センター事業

##### ①研修企画運営委員会

研修企画運営委員会は学識経験者、木材関連業者、建設業者、研修担当者等を構成員とし研修実施に必要なカリキュラムの編成方針並びに所要の指導助言を行う。

##### ②木造建築担い手育成研修

大工等技能者の減少、高齢化、技能の低下等に対応した在来軸組工法住宅建築の担い手の育成並びに技能の向上を図るための研修を行う。

##### ③木構造設計技術講習

設計技術者の木構造設計技術の向上を図るための講習を行う。

事業の実施については関係省庁・都道府県及びその関係機関と連携を図りながら住宅・木材関係団体（全建連・全建総連・木住協・ビルダー協会・技能士会・全木連・設計集団・地域協力者等）との共催または協賛を得ることとする。

### 1-3. 木造建築担い手育成研修

#### 1-3-1. 方針

技能者の育成及び技能向上については、次のことを基本とする。

- ①新規入職希望者を対象とするガイダンスまたは訓練に必要な研修
- ②現存技能者の技能レベルアップまたは意識の高揚に必要な研修
- ③大工・工務店の二世等を中心とする技能・経営についての研修

#### 1-3-2. 実施単位

事業に賛同・協力を得られる団体及び地域協力者と連携、各都道府県1グループ程度を目標とする。

#### 1-3-3. 研修計画

##### 1)プログラム

標準カリキュラムに団体及び地域の意向を加え編成する。

##### 2)構成

###### ①集合型

ア. コースの設定は、概ね次のように設定することを基本とし具体的には、関係団体等と意思疎通を図り地域の実情に即した型で設定する。

(ア) 集中型：平日（午後）～土（午前）の丸4日間

(イ) 土日型：土日の4日間

(ウ) 日曜型：日曜日のみ（または土のみ）の4日間

(エ) その他：地域の実情に対応した受講者の参集しやすい型

イ. 上記は実質4日間を単位として約1カ月で完結することを原則とするが地域の実情が、これによりがたい場合には弾力的運用を図る。

ウ. 研修は一定の場所（現地見学を除き）で、50人程度を対象として行う。

###### ②個別型

協力を得られる棟梁へ数名を対象に長期間教育

##### 3)事業の運営

ア. 事業の実施について住木センターは研修内容の整備・準備及び運営等を行う。

イ. 関係団体には地域における研修が円滑に運ぶよう協力をお願いする。

#### 1-3-4. 平成6年度実施研修会

平成6年度の実績については表-1としてこれをまとめた。

表一 1 平成 6 年度 木造建築担い手育成研修実施状況

地域	期 間	日 数	参 加 延 人 員	名簿登 録 人 員	講 師 数	場 所
岩手	2/3 ~ 2/4	2	43	25	6	一関市 I-DOME (一関市産業教養文化体育施設)
宮城	10/29 ~ 12/10	6	136	43	6	仙台市 労働福祉会館
福島	11/7 ~ 11/28	3	117	49	7	郡山市 勤労者福祉センター
栃木	11/12、11/26	2	136	101	3	宇都宮市 コンセーレ
群馬	11/15、11/19	2	86	49	7	群馬県勤労福祉センター
東京	10/15 ~ 12/29	3	120	81	6	東京都中小企業会館
新潟	3/23	1	54	50	4	新潟市 憐志田材木店
富山	10/21、12/2	2	76	75	8	富山市 高志会館 / 森林水産会館
石川	3/1、3/2	2	57	38	5	金沢市 石川厚生年金会館
福井	1/31 ~ 2/15	3	160	50	9	福井市 福井県木材会館
長野	10/28 ~ 1/24	3	46	26	9	上田市 上小木材協同組合
静岡	3/7	1	92	92	2	静岡市 静岡県産業経済会館
愛知	11/17、11/22	2	74	39	4	名古屋市 愛知芸術文化センター 高浜市 衣浦地域職業訓練センター
滋賀	3/1、3/14	2	50	37	5	守山市 K B S びわ湖教育センター
兵庫	1/25、1/26	2	(中止)			神戸市 兵庫県中央労働センター
奈良	10/29 ~ 11/12	3	140	74	7	橿原市 奈良建築高等職業訓練校
鳥取	11/26、12/3	2	80	45	4	倉吉市 中部建築工務士会館
山口	11/18 ~ 2/10	4	131	75	7	宇部市 ウッドプラザムラタ
宮崎	2/15、2/18	2	97	71	6	宮崎市 宮崎厚生年金会館 / J A ・ A Z M ホール
計		45	1,695	1,020	105	

## 1-4. 木構造設計技術向上講習会

### 1-4-1. 実施方針

近年経済社会の成熟化に伴って、建築物に対する需要の内容は、一段と多様化、高度化する傾向を強めており、このような中で、木材のもつあたたかさなど、その特有の長所を建築物に活かしていきたいとするニーズが著しく高まりつつある。こうした要請に応じて、木構造に関する研究開発は著しく進展しており、新しい技術が次々に開発されている。

これらの研究開発の成果を基礎に、昭和62年には、大断面木構造や木造3階建て住宅の技術基準が制定された。

また平成4年3月には、木造3階建共同住宅、木造の準耐火建物等の技術基準が制定される等、木構造を取り巻く技術は、最近極めて激しい動きを呈している。

こうした状況に鑑み、関係団体と提携して木造建築物の構造計画、接合等についての最近の技術を普及するため、著名な建築家及び研究者を招き、設計者・施工者・その他業界関係者を対象に講習会を開催する。

### 1-4-2. 平成6年度実施技術講習会

平成6年度の実績は表-2としてこれをまとめた。

表-2 平成6年度木構造設計技術向上講習実施状況

開催月日	名 称	場 所
H6.8/3～8/5	木構造設計技術向上講習会	岐阜県高山市
H7. 1/26	木造建築物設計施工講習会	和歌山県橋本市
1/27、1/28	木造建築セミナー	福島県・登米町 登米町（宮城県）
2/20	木造建築物セミナー	山形県新庄市
3/3	木造建築物技術セミナー	高知県高知市
3/10	木造建築物設計施工講習会	石川県金沢市
3/17	木造建築物設計施工講習会	新潟県長岡市

## 2. 木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修

### 2-1. カリキュラムの種類

本研修事業を分類すると、期間と受講対象者で分類することができる。開催のスタイルとしては、短期型－集中開催型、短期型－分散開催型となっており、本年度も長期型研修は実施されなかった。

また受講対象者は、

- ①現業対象型
- ②現業大工・工務店二世対象型
- ③各職を含めた伝統継承講座型
- ④現業女性

の4つのタイプとなっている。

開催スタイルは、集中型、分散型はあるにしても短期型であった。また、講座設定における受講対象者は、現在の大工・工務店の経営主と従業員の新知識習得を目的とした経営、新技術、技能育成を内容としたものが過半であった。

### 2-2. 本年度カリキュラム企画について

平成4年度からの課題であった、部分的なカリキュラムの統一化（とりわけ乾燥材知識の啓蒙と新JAS制度の啓蒙）を実現していくためには、地域主催者と主催者サイドの綿密な連携性とサポートが求められた。

即ち、これまでの課題として以下のような形での実施作業が求められていた。

#### ①全体プログラム企画書の提出

プログラム

日程

受講対象者

研習会の狙い

#### ②研修企画運営委員会の検討

提出された企画書をもとにいくつかのタイプに整合。

カリキュラムの統一可能な部分については、教材を統一化。

#### ③全国企画者会議

研修企画運営委員会において検討されたカリキュラムをもとに、各地域における企画者を交えての、統一会議。研修会の意味や地域的なニーズ及び望ましい方向性などを検討。

#### ④統一ガイダンスの作成

これまで地域毎に明示されていたカリキュラムを開催全地域のプログラムを網羅した専修センター担い手育成研修ガイダンスを作成する。ガイダンスにはその狙いや意味等がプログラム毎に明記され、地域における参加者が、自分たちの受講している講習の意味と位置づけを知るとともに、他地域でのプログラムなども併せて知ることによって、講習会に対するニーズがより顕在化してくると考えられる。また、こうした統一ガイダンスを作成することによって、全国的なスケールでの1つの学校もしくは塾に参加している意識を形成することができ、それによって参加者の研修会に対するインセンティブをより形成することが可能となる。

であったが、企画運営委員会の検討においても、基本的には地域の実情（受講者のニーズ）にあったカリキュラムづくりが望ましく、あまり研修内容の規制を行うことは、現実的でない、という視点から、基本的には以下のような方法で地域主催者（企画者）とカリキュラム整理を行うこととした。

本年度カリキュラムの特長は、各地域の主催者を対象として作成された「担い手研修ガイダンス」（平成5年度作成）において講座分類された以下の講座を中心にカリキュラム編成がなされた。

1. 木造建築と施工を学ぶ講座
2. 木材知識を学ぶ講座
3. 法律・制度・融資の知識を学ぶ講座
4. 地域適合木造住宅を学ぶ講座
5. 伝統技能を学ぶ講座
6. 技能者育成を学ぶ講座
7. 工務店経営の課題を学ぶ講座
8. 市場動向とニーズを学ぶ講座
9. 木造住宅の開発を学ぶ講座
10. 住宅生産の合理化とプレカットを学ぶ講座
11. 設計・デザインを学ぶ講座
12. 積算と設備材料知識を学ぶ講座
13. 高断熱・高気密住宅と省エネルギーを学ぶ講座
14. 木造3階建てを学ぶ講座
15. 高齢者対応とリフォーム対応を学ぶ講座

この各講座内容から、企画者がこれまで実施された主な講演名と講師一覧を参照してカリキュラムが作成された例が多かった（2-1 参考資料参照）。

さらに、本年度は、乾燥材普及のための基礎知識及び新JASに関する

## 1. 木造建築と施工を学ぶ講座

この講座では、木造建築の基本となる木構造と性能などについての講義や設計・施工上の留意点さらには、大断面集成材等の木造建築に欠くことのできない講義がなされています。

また、住宅における基本的な工法や最近の動向、とりわけ木造住宅については、新しい接合方法など、施工に関する最新の技術的な情報提供も行われています。

### ●主な講義

これからの木造住宅と木構造  
 木造建築構法の基本  
 大規模木造建築工法と施工  
 木造建築物の防火  
 木質構造と性能  
 大型木造建築の設計施工  
 木の住まいの基礎知識  
 木造住宅の構法と技術の可能性  
 快適で長持ちする住まいづくりの施工法と留意点  
 木造住宅の新しい接合法  
 工法の種類と設計施工方法  
 木造建築の接合法  
 木造住宅の耐久性を高めるための施工  
 現場から—躯体、架構、仕上げ、壁体の実際

### ●講師陣

- |         |                            |
|---------|----------------------------|
| * 浅野 良晴 | 信州大学 助教授 (於・長野県)           |
| * 井上 正文 | 大分大学 助教授 (於・大分県)           |
| * 井部 正弘 | 群馬県労働基準局安全衛生課 (於・群馬県)      |
| * 内原 一誠 | 奈良住宅建設関連事業協同組合 副理事 (於・奈良県) |
| 太田 邦夫   | 東洋大学 教授                    |
| 大橋 好光   | 東京大学 助手                    |
| 鷺海 四郎   | (財)日本住宅・木材技術センター 主任研究員     |
| 坂本 功    | 東京大学 教授                    |
| * 笹川 明  | 信州大学 教授 (於・長野県)            |
| * 笹畑 憲文 | 一級建築士 (於・奈良県)              |
| * 佐藤 桂  | 佐藤設計建築 代表 (於・群馬県)          |
| * 菅野 照夫 | シンタックホーム 代表 (於・岩手県)        |
| * 鈴木 基  | 斉藤木材工業(株) 設計部長 (於・長野県)     |
| * 瀧川 昭雄 | (株)瀧川寺社建築 代表取締役 (於・奈良県)    |
| * 徳田 迪夫 | 三重大学 教授 (於・宮崎県)            |
| * 野口 誠二 | (株)野口工務店 代表取締役 (於・群馬県)     |
| 藤澤 好一   | 芝浦工業大学 教授                  |
| 松留 慎一郎  | 職業能力開発大学校 助教授              |
| 最上 滋二   | (財)日本住宅・木材技術センター 首席研究員     |
| * 森 光正  | 兵庫県立工業技術センター 主任研究員 (於・兵庫県) |
| 山井 良三郎  | (財)日本住宅・木材技術センター 客員研究員     |
| * 山本 重行 | 奈良住宅建設関連事業協同組合 理事 (於・奈良県)  |
| 吉田 桂二   | 熊本大学 客員教授                  |
| * 芳山 憲祐 | (株)大分住宅研究室 代表取締役 (於・大分県)   |

(\*印は地域講師・講師の所属は講義時のもの)

啓蒙普及を行うための講座が、殆どの研修カリキュラムにおいて立案・実施された。

また、本年度は実施予算の関係で、開催期間は延べ45日、1開催当たり平均2.4日となっており、殆どが短期型（最長で宮城県の6日であるが、これは、過去3年間同様の研修形式となっているため）へと研修開催期間がシフトしている。

### 2-3. 本年度の事業実績

前節の主旨に基づいて、木材技術専修センター事業は実施された。

平成6年度に実施された「木造建築担い手育成研修」は、全国18カ所（兵庫は阪神大震災により中止）において実施され、延べ1,695名、名簿登録者実数1,020名（前年度1,651名）の受講者があった。

これまでの研修の実施状況については、表-3「平成3～6年度木造建築担い手育成研修県別状況」にまとめた。

本事業も4年目を迎え、平成3年度13カ所、平成4年度22カ所、平成5年度23カ所、本年度18カ所開催となっており、昨年度開催をピークに開催箇所、受講者人員もやや減少している。これは、先に記したように、実行予算の減少によって生じた現象、ということができる。

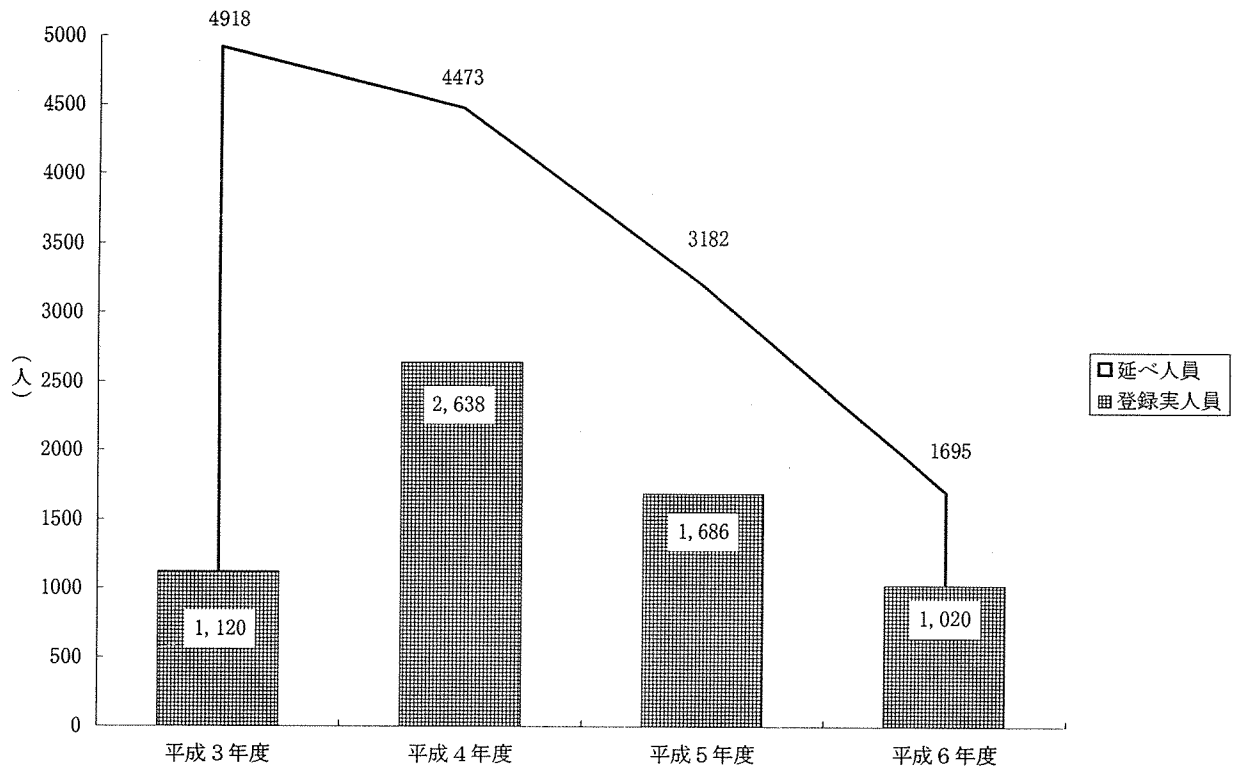
しかし、過去3年間の研修実績は、木造住宅業界にとっては、大きな成果であり、本事業によって、京都などの地域から本格的な担い手育成事業が動きはじめている。また、小規模な木造住宅業態にとっては、建材メーカー等の主催する研修会への参加等はこれまでもあったが、第三者機関による非営利による研修会への参加機会はそれほど多くはなく、その意味でも本事業は、予算的な問題もあるが、一定の定着を見ている、ということができる。



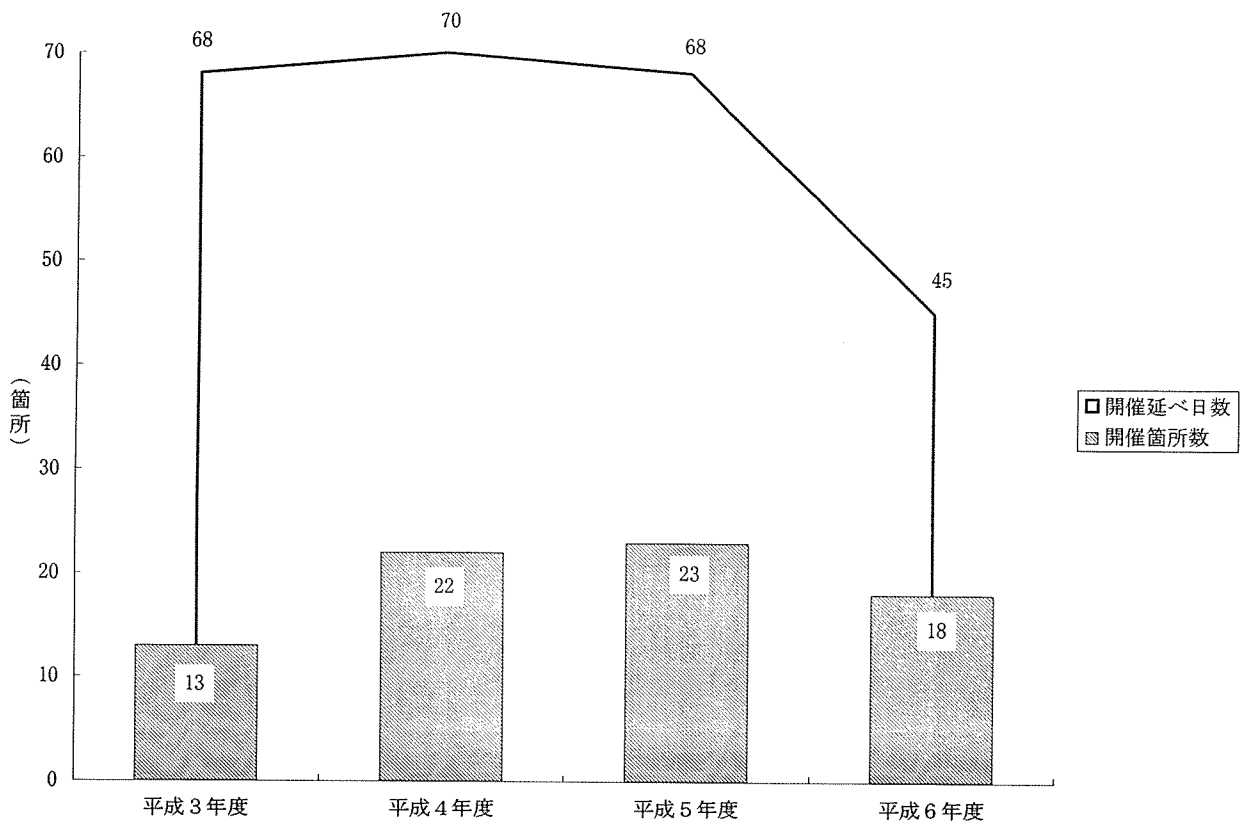
表－3 平成3年度～平成6年度木造建築担い手育成研修実施状況

地 域	3年度	4年度	5年度	6年度	地 域	3年度	4年度	5年度	6年度
北海道		○	○		滋 賀		○	○	○
青 森					京 都	○	○		
岩 手		○	○	○	大 阪	○		○	
宮 城	○	○	○	○	兵 庫	○	○	○	中止
秋 田					奈 良	○	○	○	○
山 形					和歌山				
福 島		○	○	○	鳥 取				○
茨 城	○				島 根				
栃 木				○	岡 山		○	○	
群 馬	○	○	○	○	広 島				
埼 玉					山 口		○	○	○
千 葉					徳 島				
東 京	○	○	○	○	香 川				
神奈川					愛 媛				
山 梨			○		高 知				
長 野	○	○	○	○	福 岡				
新 潟		○	○	○	佐 賀				
富 山			○	○	長 崎				
石 川	○	○	○	○	熊 本				
福 井		○	○	○	大 分	○	○	○	
岐 阜					宮 崎	○	○	○	○
静 岡		○	○	○	鹿 児 島		○		
愛 知			○	○	沖 縄				
三 重					計	12	20	22	18

### 参加人員推移



### 開催実績



## 木造建築担い手育成研修プログラム

### (1) 岩手県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 2月3日  (金)	岩手県における住宅建設の 現状について	岩手県 建築住宅課 技術副主幹兼住宅企画係長 岡田 稔
	木造住宅の生産合理化と新工法の動向	(財)日本住宅・木材技術センター  技術開発部長 帯金 貞介
	南部アカマツ材と難燃化について	岩手県林業技術センター 専門研究員 多田野 修
2月4日  (土)	新JAS制度と木材	東京農林水産消費技術センター 仙台支所 農林産課長 吉川 芳明
	障害者・高齢者住宅の考え方と実際	(株)地域生活情報センター 代表取締役 棚木 保匡
	住宅産業における乾燥材利用の実態と 構造材の乾燥について	岩手大学 農学部 教授 沢邊 攻

(2) 宮城県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 10月29日 (土)	工務店住宅のコストダウン戦略の展開	(株)青木工務店 代表取締役 青木 宏之
	同上 意見交換	
	地域工務店としての企業イメージづくりと住宅づくりを考える	
11月5日 (土)	地域工務店の特長づくりと そのために求められる事柄	OMソーラー協会 専務理事 小池 一三
	同上 意見交換	
	成長する工務店のタイプと市場にミートすることが出来ない工務店のタイプ	
11月19日 (土)	女性を中心となる これからの木造住宅づくりを考える	(有)岩井絃子建築設計事務所 所 長 岩井 絃子
	同上 意見交換	
	女性スタッフの育成と それによる住宅づくりの方法を考える	
11月26日 (土)	高齢化時代の家づくりの方法を考える	東北工業大学 教 授 志田 正男
	同上 意見交換	
	東北の家として望まれる住宅の設計思想と工務店住宅の社会的な役割を考える	
12月3日 (土)	木造住宅の生産の合理化はどのような形で進めていくべきなのか施工システムと供給ソフトのありようを考える	(株)アティアス 代表取締役 岩下 繁昭
	同上 意見交換	
	情報システムによって変わる家づくり	
12月10日 (土)	工務店2世や女性ビルダーが考えるべき宮城での市場対応	(株)オブコード研究所 所 長 野辺 公一
	同上 意見交換	
	工務店のネットワークづくりは本当に可能なのか	

(3) 福島県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 11月7日 (月)	木造住宅の結露と換気	日本大学 工学部 専任講師 八町 雅康
	針葉樹構造材の規格について	福島県林業振興課 佐藤 守
	大工技能の今後のあり方と人材育成	職業能力開発大学校 教授 谷 卓郎
	木造住宅建築と乾燥材	日本大学 工学部 助教授 橋本 寛
11月17日 (木)	21世紀の建築に対する社会的ニーズ ーライフサイクルコストデザイナー	日本大学 工学部 教授 岩崎 博
	木造住宅の推進策について	福島県建築住宅課 本間 隆
	統計から見た住宅居住者の事故に学ぶ (建築設計と施工の要点)	日本大学 工学部 教授 佐藤 平
11月28日 (月)	現地研修 ①木材製品市場 ②欧米の住宅めぐり	日本大学 工学部 福島県建築住宅課 福島県林業振興課

(4) 栃木県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 11月12日 (土)	障害者・高齢者住宅の考え方と実際	(株)地域生活情報センター 代表取締役 榎木 保匡
	木材の良さと環境問題 (乾燥材利用の必要性を含む)	東京大学 農学部 助教授 有馬 孝禮
11月26日 (土)	規矩術入門 (さしがね使いの基本とポイント)	(株)土田工務店 代表取締役 土田 利雄

(5) 群馬県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 11月15日 (火)	木材利用について 乾燥材の必要性とJASのポイント	(財)日本住宅・木材技術センター 調査部長 秋山 俊夫
	高断熱・高気密住宅設計と 施工上の留意点	(株)ノーヴァス 代表取締役 青山 正昂
	住宅金融公庫融資木造住宅の積算術と 公庫設計審査の関連について	住宅金融公庫北関東支店 調査役 町田 隆一
11月19日 (土)	木造3階建ての設計と施工上の問題点 (建築基準法関連)	群馬県建築課建築指導係 主 査 坂本 公行
	木造住宅建設に係わるトラブルと その対策 (法律関係)	弁護士 熊川 次男
	木造住宅の将来像について	群馬県ゆとりある住生活 推進協議会 会 長 蜂巢 進
	輸入住宅の事例紹介	群馬県建築課 宅地開発係長兼課長補佐 椎名 映夫

(6) 東京都研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 10月15日 (土)	これからの木造住宅の方向性を学ぶ 「高齢者に優しい住まいを ～住宅改造のポイント」	東京土建江戸川住宅センター 副会長 戸室 武志 運営委員 橋本 道之
	若手技能者をいかにして育てるか ①技能者育成の現状と今後の課題 ②技能者育成の実践報告 ③全体討議 (意見交換～集約)	職業能力開発大学校 教 授 谷 卓郎 技能者育成中の工務店店主 並びに養成中の技能者
10月22日 (土)	規矩術を学ぶ 「規矩術の利点と応用の実務」	中央技能検定委員会 委 員 増田 實
	木材の「新」基礎知識を学ぶ ①乾燥材による家造りの必要性和 木の本質 ②構造用製材の新JASのポイント (意見交換～集約)	(財)日本住宅・木材技術センター 調査部長 秋山 俊夫
	住宅金融公庫融資住宅を学ぶ 「東京の住宅建築の現況と 住宅金融公庫共通仕様書のポイント」	住宅金融公庫 技術開発課 調査役 門田 豊和
10月29日 (土)	住宅と木材について現地に学ぶ ①東京ウッディランド 「在来工法木造住宅モデルハウス等」	林野庁東京営林局 東京木材サービスセンター
	②銘木標本館 「長蔵スギ (樹齢 500年) を始め約 1000点の銘木を鑑賞	(財)日本住宅・木材技術センター 試験研究所



(7) 新潟県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 3月23日 (木)	新潟県における住宅建築及び 木材振興について	新潟県 林政課 保科 孝且 新潟県 建築住宅課 大岩 佐
	伝統軸組工法にこだわる工務店の 今後の戦略	新潟県職業能力開発短期大学校 村尾 欣一
	地震と木造住宅	新潟県職業能力開発短期大学校 村尾 欣一
	高性能住宅に対応した 住宅部材の選択について	㈱志田材木店 代表取締役 志田 修一

(8) 長野県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 10月28日 (金)	木材利用と品質管理について (乾燥材利用促進を含む)	長野県林業総合センター 主任研究員 庫 橋爪 丈夫
	最近の木造住宅構法の動向	東京大学 建築学科 助 手 大橋 好光
	木造建築構法の基本	信州大学 社会開発工学科 教 授 笹川 明
11月22日 (火)	プレカット構法研究	東京大学 建築学科 助教授 松村 秀一
	工務店の活性化	(株)オプコード研究所 所 長 野辺 公一
	大規模木構造の実例と展望	斉藤木材工業(株) 設計部長 鈴木 基
平成7年 1月24日 (火)	新しい設備や総合情報を知るために	信州大学 社会開発工学科 助教授 浅野 良晴
	これからの木造建築	東京大学 建築学科 教 授 坂本 功
	施主、設計者、施工者の関連について	(株)宮本忠長建築設計事務所 所 長 宮本 忠長

(9) 静岡県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 3月7日 (火)	木材利用と品質管理	横浜農林水産消費技術センター 静岡支所 消費科学課長 石川 孝澄
	これからの工務店像	OMソーラー協会 理事長 小池 一三

(10) 愛知県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 11月17日 (木)	木造建築と乾燥材 (木材乾燥の知識と必要性)	(財)日本木材総合情報センター 木のなんでも相談室長 農学博士 筒本 卓造
	住まいのデザイン (住まい方に対応した家づくり)	(有)サン住宅企画室 インテリアコーディネーター 一級建築士 宮田 直子
	知っておきたい住宅設備情報 (水回り設備を中心として)	東陶機器(株)名古屋支社 商品技術課長 山本 直助
11月22日 (火)	木造住宅の生産合理化と新工法の動向 (プレカット工法とパネル工法)	中部住宅販売(株) 常務取締役 技術開発課長 斉藤 啓一
	プレカット工場見学 (プレカット工法・パネル工法を学ぶ)	イビデン(株)衣浦工場 (高浜市)

(11) 富山県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 10月21日 (金)	明るいこれからの大工・工務店	職業能力開発大学校 助教授 松留慎一郎
	大工・工務店からの体験発表	田村建築工業 田村 忠義 田畑建工 田畑 好美 すぎはら建築工房 杉原 賢磁
	新しい職人の時代をめざして (全体討議～意見交換)	職業能力開発大学校 助教授 松留慎一郎
12月2日 (金)	社寺建築における木材利用	酒井 仁義
	構造用製材のJASについて	富山県林業技術センター 木材試験場 主任研究員 中谷 浩
	建築用木材の乾燥について	富山県林業技術センター 木材試験場 研究員 橋本 彰

(12) 石川県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 3月1日 (水)	木造住宅の生産合理化と新工法の動向	(財)日本住宅・木材技術センター 技術開発部長 帯金 貞介
	建築用材としての木材の特徴と規格	石川県ウッドセンター 所 長 三林 進
	北陸の地域特性に適応した住宅づくり	(株)ハートハウス 代表取締役 高田 晴子
3月2日 (木)	高齢者・障害者に 配慮した住まいづくり	石川県建築士会 女性部会長 田尻 純江
	木造住宅の購入者ニーズの実態と 今後の工務店のあり方	(株)オプコード研究所 所 長 野辺 公一

(13) 福井県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 1月31日 (火)	住宅業界の今後と木材の役割について	オダケホーム(株) 代表取締役 小竹 哲
	女性からみた住宅づくり (住宅プラン、インテリア、設備等)	栄建築事務所 所 長 菱田 栄子
	木造住宅の新しいシステムと 技能者の役割について	住友林業(株) 住宅本部 技師長 福本 雅嗣
2月10日 (金)	福井における木造住宅建築事例研究 (契約、設計、積算、施工、引渡)	(株)浜本工務店 代表取締役 浜本健一郎
	木造住宅における開口部の機能 について(木製サッシの機能を探る)	セーレン(株) 販売第二課 課 長 大谷 三郎
	工務店住宅の再点検 (売れるための住宅とするために何が 足りないか、そして客の満足度を探る)	(株)オブコード研究所 所 長 野辺 公一
2月15日 (水)	建築木材と乾燥材の必要性	(財)日本木材総合情報センター 木のなんでも相談室長 農学博士 筒本 卓造
	木造住宅とJAS製品 (生産者・利用者共に学ぶ)	名古屋農林水産消費技術センター 係 長 渡辺真佐志
	福井材の供給と需要の現状について (製材から乾燥仕上げ工程までを実例 に学ぶ)	福井県製材業(協) 工場長 堂下 紀夫

(14) 滋賀県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 3月1日 (水)	木造住宅の新しい供給システムと 技能者の役割について	住友林業(株)住宅本部 技師長 福本 雅嗣
	木材乾燥の基礎知識と 乾燥材の必要性を学ぶ	(財)日本木材総合情報センター 木のなんでも相談室長 農学博士 筒本 卓造
3月14日 (火)	地震と木造住宅	京都大学 助教授 増田 稔
	木造住宅のデザインについて (木造建築に対する消費者ニーズを 学ぶ)	(株)エーアンドエー・セントラル 一級建築士 丸谷 博男
	木造住宅の融資制度を学ぶ (住宅金融公庫融資ほか住宅関連融資 の種類とその概要)	滋賀銀行審査部ローンセンター 柴原 寛



(15) 奈良県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 10月29日 (土)	①構造用材の多面的有効利用 ②加工技術の最先端はどこまでできるか ③乾燥材利用の促進	奈良県林業試験場 場 長 中西 祺周
	製材業者の実態と建築業者との技術協力をどのように取り組むべきか	奈良県木材協同組合連合会 専務理事 中 武兵衛門
	木造建築の歴史から 現代木造住宅を学ぶ	奈良県民俗博物館 主任学芸員 浦西 勉
11月5日 (土)	奈良（大和）風土、気候にあった街づくり、家づくりを学ぶ	京都大学 助教授 東樋口 護
	①若夫婦に人気の屋根裏部屋、収納を生かした設計 ②高齢者に即した水平基調の設計案を学ぶ	吉本建築設計事務所 所 長 吉本 正治
	集成材の技術的進歩を知り、大工・工務店がどう在来工法に取り入れていくか	トリスミ集成材㈱ 代表取締役 貝本富之輔
11月12日 (土)	古都建築物を学ぶ現地見学 京都市内（嵯峨野、大原、嵐山など）	京都大学 助教授 東樋口 護

(16) 鳥取県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 11月26日 (土)	木造住宅の新しい動向 木造住宅の生産合理化と新工法の動向	(財)日本住宅・木材技術センター 技術開発部長 帯金 貞介
	木材の新基礎知識を学ぶ 構造用製材の新JASのポイント	神戸農林水産消費技術センター 岡山支所農林産課長 国政 晋朗
	木材の新基礎知識を学ぶ 乾燥材による家づくりの 必要性と木の本質	(有)ウッドリサーチニシオ 代表取締役 西尾 茂
12月3日 (土)	木造住宅に求められるニーズ 高齢者（障害者）に配慮した 住宅づくり（リフォームを含む）	(株)地域生活情報センター 代表取締役 栩木 保匡

(17) 山口県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成 6 年 11月18日 (金)	木造住宅の多様化と工務店住宅 ①輸入住宅の動向とそのニーズ	エー・ビー・シー開発(株) 取締役東京支社長 戸谷 英世
	木造住宅の多様化と工務店住宅 ②新世代木造・木造住宅合理化システム認定事業からみた木造工法の動向	(財)日本住宅・木材技術センター 技術開発部長 帯金 貞介
12月10日 (土)	住宅建設コスト低減化の方針検討 ①住宅資材調達独自の展開を考える	(株)アティアス 代表取締役 岩下 繁昭
	住宅建設コスト低減化の方針検討 ②住宅コスト低減化のための住宅生産システムを考える	芝浦工業大学 教 授 藤澤 好一
平成 7 年 1 月20日 (金)	工務店住宅のこれからの方向性を考える ①木造住宅の現在と未来	東京大学 助教授 松村 秀一
	工務店住宅のこれからの方向性を考える ②工務店住宅の新たな供給ソフトの条件	(株)オプコード研究所 所 長 野辺 公一
2 月10日 (金)	工務店における若者の人材育成を考える ①若者が集まる技能者集団づくりとは	(株)岩野商会 会 長 岩野 宏
	工務店における若者の人材育成を考える ②どのような育成システムをつくるのか (参加者討論・意見交換)	

(18) 宮崎県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成7年 2月15日 (水)	工務店における若者の 人材育成を考える ①若者が集まる技能集団づくりとは ②どのような育成システムをつくるのか ③全体討議 (意見交換)	榑岩野商会 会 長 岩野 宏
	木造住宅振興について ①地域に根ざした住まいづくりの提案 (みやざきの家仕様書) ②全体討議 (意見交換)	宮崎県建築住宅課 住宅対策主幹 田畑 秀文 座長 (助言者) (財)宮崎県建築住宅センター 主 査 戸高 厚志
2月18日 (土)	木材の「新」基礎知識を学ぶ ①乾燥材による家造りの 必要性と木の本質	宮崎大学 名誉教授 中村 徳孫
	木材の「新」基礎知識を学ぶ ②構造用製材の新JASのポイント	宮崎県木材協同組合連合会 共同出荷部長 上村 敏彬
	木材の「新」基礎知識を学ぶ ③プレカット施工方法について (ビデオ研修)	(財)日本住宅・木材技術センター
	プレカット機械による 加工の実際を現地に学ぶ	宮崎木造住宅事業協同組合 工場長 野中 勝

## 木構造設計技術向上講習プログラム

### (1) 岐阜県／飛騨高山講習会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
平成6年 8月3年 (水)	人材育成の展望と実践活動例	芝浦工業大学 教 授 藤澤 好一
	地域の住宅とまちづくりシステム	東洋大学 助教授 秋山 哲一
8月4日 (木)	世界の木造建築に見る 木材資源の利用方法	東洋大学 教 授 太田 邦夫
	東南アジアにおける 木造住宅の生産システム	京都大学 助教授 布野 修司
	住宅生産のシステムの日英比較	千葉大学 講 師 安藤 正雄
8月5日 (金)	「木匠塾」の将来計画と 改造計画及び改造実習	指 導 太田 邦夫 藤澤 好一 秋山 哲一 布野 修司 安藤 正雄

(2) 和歌山県／橋本市講習会プログラム

期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 1月26日 (木)	大規模木造建築物の現状と これからの方向	東京理科大学 教 授 杉山 英男
	木造3階建ての設計について	和歌山県建築課 主 幹 花畑 守彦

(3) 福島県／登米町講習会プログラム

期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 1月27日 (金)	宮城県登米の古建築と町並み	東北工業大学 助教授 西野 敏信
1月28日 (土)	登米町と中新内町の古建築現地見学	” ”

(4) 山形県／新庄市講習会プログラム

期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 2月20日 (月)	これからの 木造建築を考える	森林総合研究所木材利用部 構造性能研究室 室 長 神谷 文夫

(5) 高知県／高知市講習会プログラム

期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 3月3日 (金)	高知県産重ね梁について	高知県工業技術センター 技術第4部 総括主任 西内 豊
	スギ材による多目的ドームの 建設について	高知県土木部 営繕第3班長 浅井 義之

(6) 石川県／金沢市講習会プログラム

期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 3月10日 (金)	これからの木造建築を考える	森林総合研究所木材利用部 接合研究室長 小松 幸平

(7) 新潟県／長岡市講習会プログラム

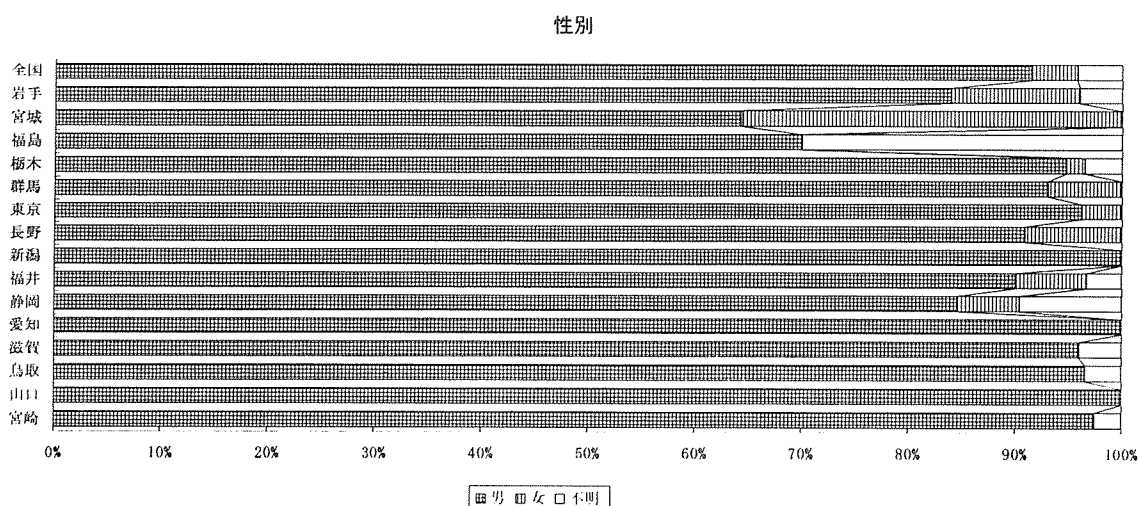
期 日	講 習 内 容	講 師
平成7年 3月17日 (金)	構造用大断面集成材による 木造建築の可能性	東京大学 助教授 有馬 孝禮

## 第2章 受講者アンケート結果から見る専修センター事業

本年度も、全国19カ所で開催された研修会場において、統一したアンケートを実施した。その内、岩手、宮城、福島、栃木、群馬、東京、長野、新潟、福井、静岡、愛知、滋賀、鳥取、山口、宮崎の受講者アンケート全423人の回答から、専修センター事業に対する受講者の評価をみることにする（以下、回答合計を全国と呼ぶ。また、不明回答もあり必ずしも100%合計とはならない）。

### 1. 受講者の男女比

全国平均では、男性91.5%（前年度89.3%）、女性4.3%（前年度6.8%）であり、今年度も圧倒的に男性受講者が中心となっている。この内、女性の受講者が多い地域を見ると、宮城35.7%（前年度70.6%）、岩手12.0%、長野9.1%の順となっている。

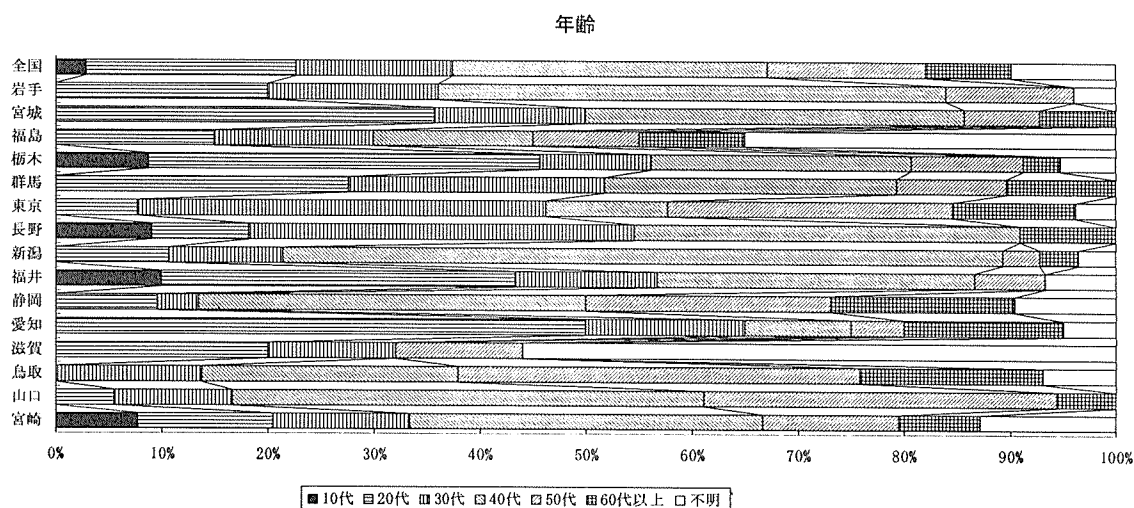


### 2. 受講者年齢

全国平均では、40代29.8%（前年度27.5%）、20代19.9%（前年度14.4%）、50代14.9%（前年度17.2%）、30代14.7%（前年度21.6%）、の順となっており、20代の受講者が増加していることがわかる。年齢別には、40代、20代が増加した分、30代、50代が減少傾向を示している。

この事業の「担い手の育成」ということから考えると、20代の増加は、その趣旨が浸透しつつある結果ということもできる。若年層である10代、20代合計の構成比が高い地域は、愛知50.0%、栃木45.6%、福井43.3%、宮城35.7%などとなっている。





### 3. 受講者の業種

勤務先の業種を見ると（複数回答）、全国では工務店（従業員9名以内）が31.4%（前年度28.5%）と最も多く、次いで大工職22.3%（前年度16.0%）、工務店（従業員10名以上）11.2%（前年度18.9%）の順となっており、比較的小規模な業態での担い手の参加が増加していることがわかる。

工務店（従業員9名以内）と大工職の合計の構成比が最も多いのは、栃木86.5%、東京78.6%、愛知75.0%、群馬70.9%、新潟50.0%の順となっている。

逆に工務店（従業員10名以上）が最も多いのは、山口45.0%であり、次いで福井36.7%、岩手23.1%の順となっている。

### 4. 従事している仕事

受講者の従事している仕事を全国平均（複数回答）で見ると「施工・技能」26.9%が最も多く、次いで「工事管理」15.3%、「経営」15.0%、「設計」14.3%の順となっており、「施工・技能」を中心とした受講者が多いことがわかる。

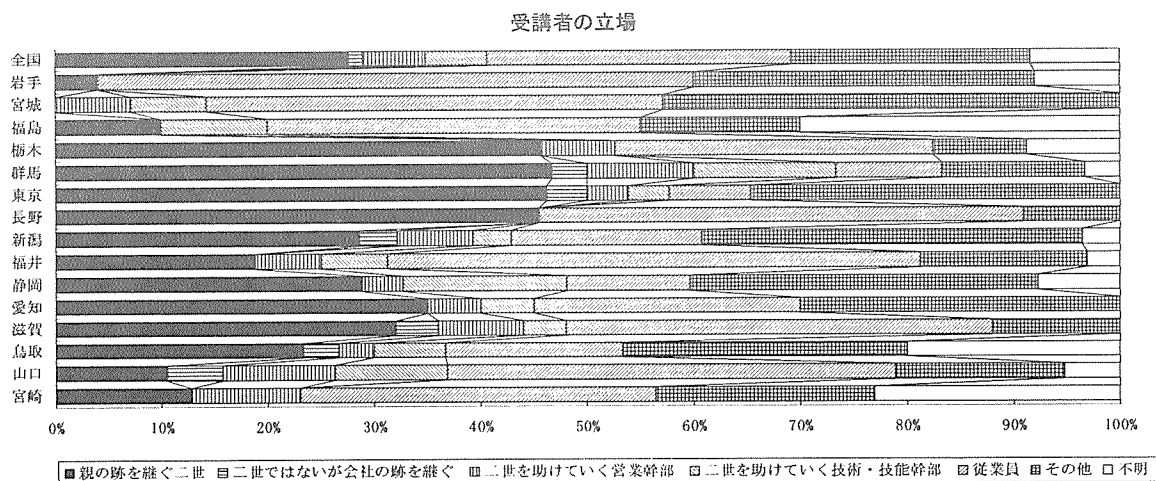
従事している仕事が「施工・技能」と応えた受講者が多い地域は、栃木59.0%、愛知42.4%、鳥取32.8%となっている。これに「工事管理」を加えた仕事構成比の高い地域を見ると、栃木65.0%、鳥取52.5%、愛知54.5%、長野44.4%、宮崎43.0%の順となっている。

### 5. 取得している資格

受講者の取得している資格を見ると「二級建築士」が最も多く21.5%、「なし」19.3%、「一級技能士」12.3%などとなっている。

## 6. 受講者の立場

受講者の現在の立場は、全国平均では「従業員」が最も多く28.5%であり、次いで「跡を継ぐ2世」27.6%が中心となっている。この内「2世」の構成比が高い地域を見ると、群馬45.6%、東京46.2%、栃木45.6%の順となっている。



## 7. 取り扱っている建築構造の種類

全国平均では「木造建築物（軸組）」が68.8%（前年度79.7%）と最も多く、木造住宅の担い手研修にふさわしい構成となっている。また、「木造建築物（軸組）」の構成比が低い地域を見ると山口が50.0%となっているが「木造建築物（2×4）」構成比が38.5%と最も高く、ビルダーを中心とした受講者が多い状況を伺わせる。

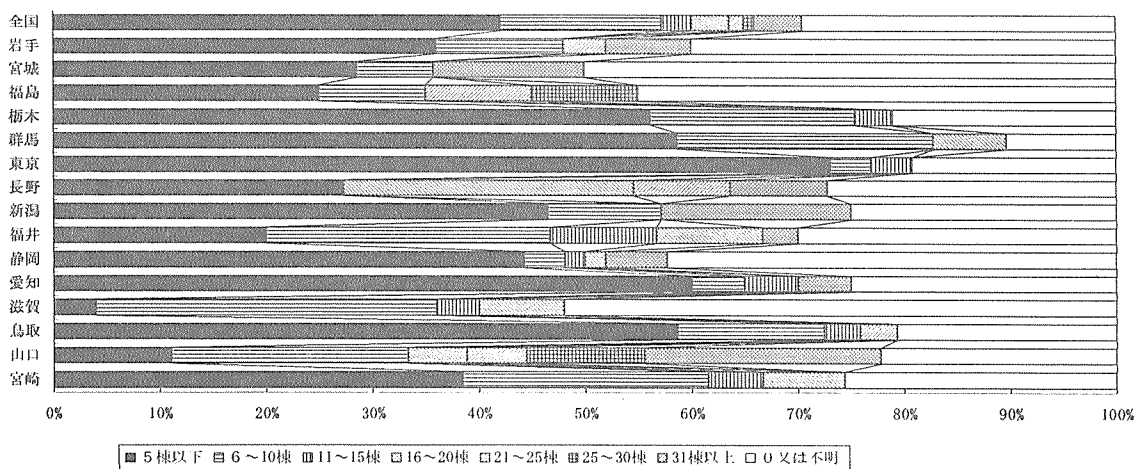
## 8. 1年間に取り扱った住宅棟数（軸組）

全国平均を見ると、年間5棟以下が42.1%（前年度39.8%）と最も多く、次いで6～10棟が15.1%（前年度13.8%）となっている。0棟（不明を含む）構成比は29.6%（前年度29.0%）であった。

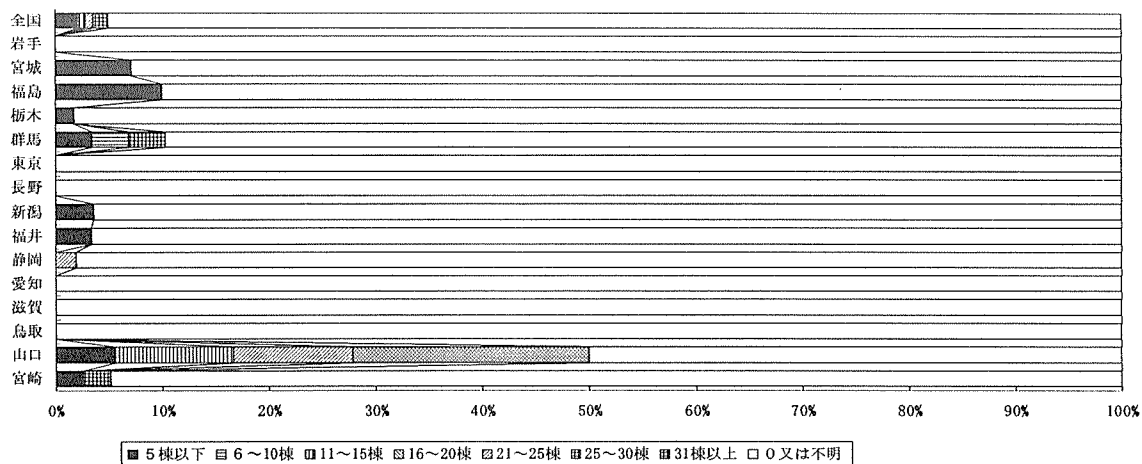
地域別に5棟以下構成比を見ると、東京73.1%、愛知60.0%、群馬58.6%、鳥取58.6%、栃木56.1%の順となっている。

また、全国平均での2×4を見ると、0棟（不明を含む）構成比が最も高く95.0%（前年度92.0%）となっている。

1年間に取り扱った住宅棟数（軸組）



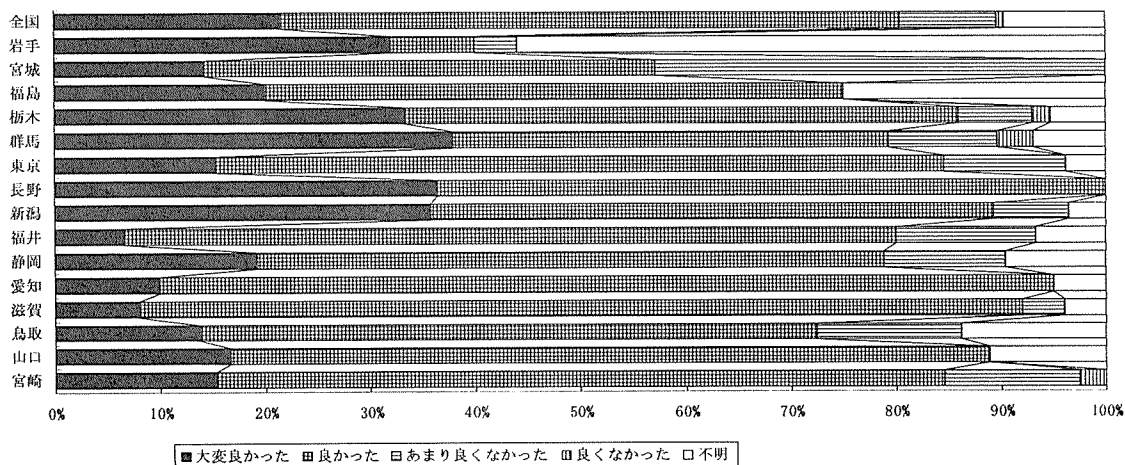
1年間に取り扱った住宅棟数（2×4）



### 9. 研修全体への評価

研修全体への評価としては、全国平均では「良かった」が58.9%（前年度62.8%）と最も高く、「大変良かった」の21.5%（前年度26.7%）と合わせると受講者の80.4%（前年度89.5%）となっており、前年度評価をやや下回っているが、8割の受講者から高い評価を得ており、研修開催の意義は高い、ということが出来る。

研修全体の評価



逆に「あまり良くなかった」9.2%（前年度7.6%）と「良くなかった」0.7%（前年度0.4%）を合わせた研修に対するマイナス評価は9.9%（前年度8.0%）となっており、前年度より若干上昇している。

また、マイナス評価のサンプル数は423回答中42（前年度487回答中61）であった。この少ないサンプルからマイナスの評価理由を見ると「期待していたものと内容が違った」が41.3%（前年度39.3%）と最も多い。

#### 10. 来年度の研修希望と研修テーマ

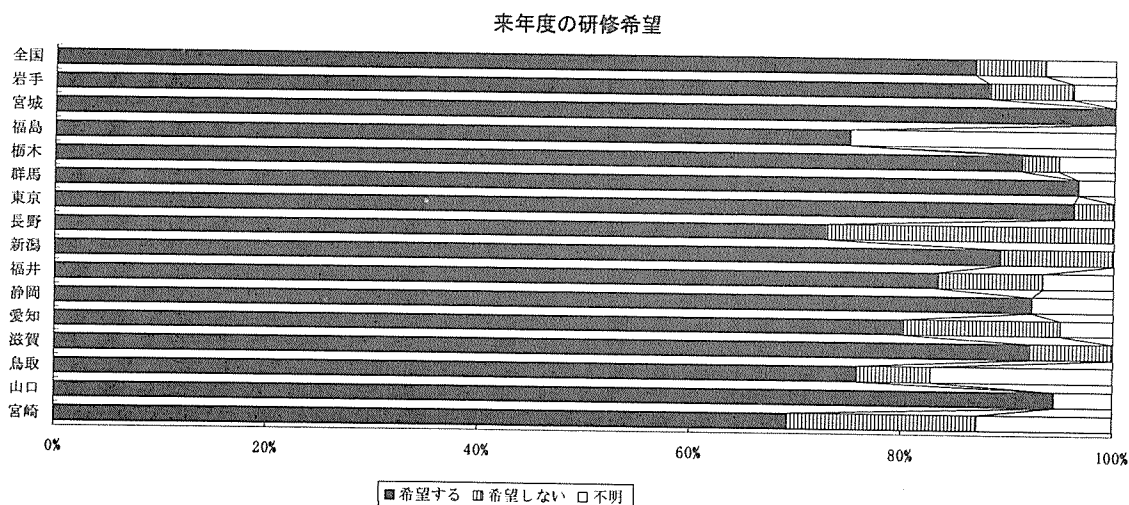
全国平均で見ると、来年度も研修を「希望する」が86.8%（前年度89.3%）と最も高く、「希望しない」は6.6%（前年度6.8%）であった。

研修テーマとして最も希望されているのは、全国平均では「施工・技術」21.3%であり、次いで「経営」15.8%、「営業」13.8%の順であり、最も低い構成比を示しているのが「施工技術等の実習」5.9%であり、次いで、「資金・融資」6.1%、「関係法律」6.5%の順となっている。

これを近似する概念同士で構成比を比較してみると、「経営+営業+関係法律+資金・融資」42.2%、「設計+積算+建材設備情報」26.4%、「施工・技術+施工技術等の実習」27.2%となっており、マネジメント系、設計系、施工系の3つの枠で見ると、マネジメント系の希望が高いことがわかる。

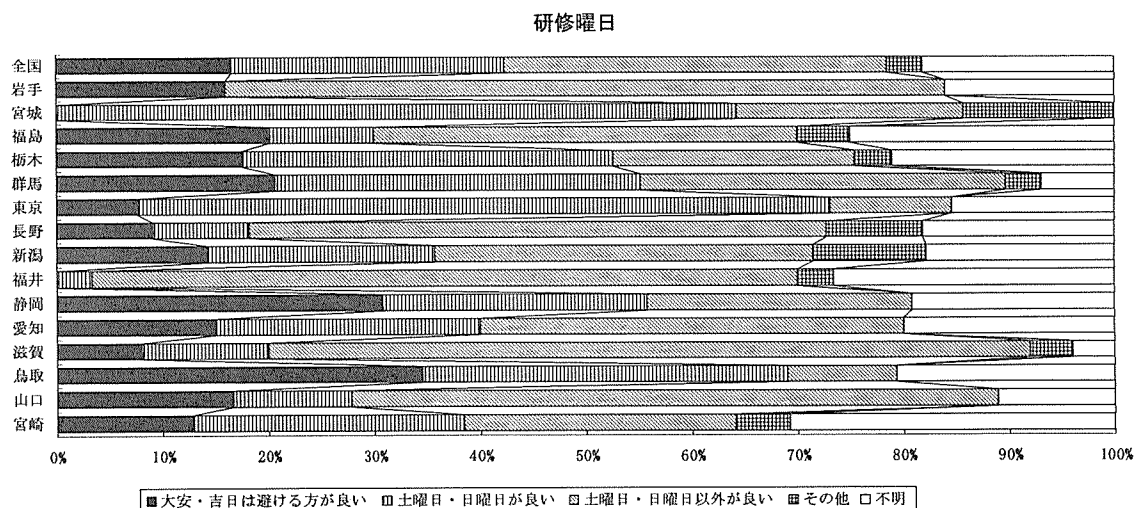
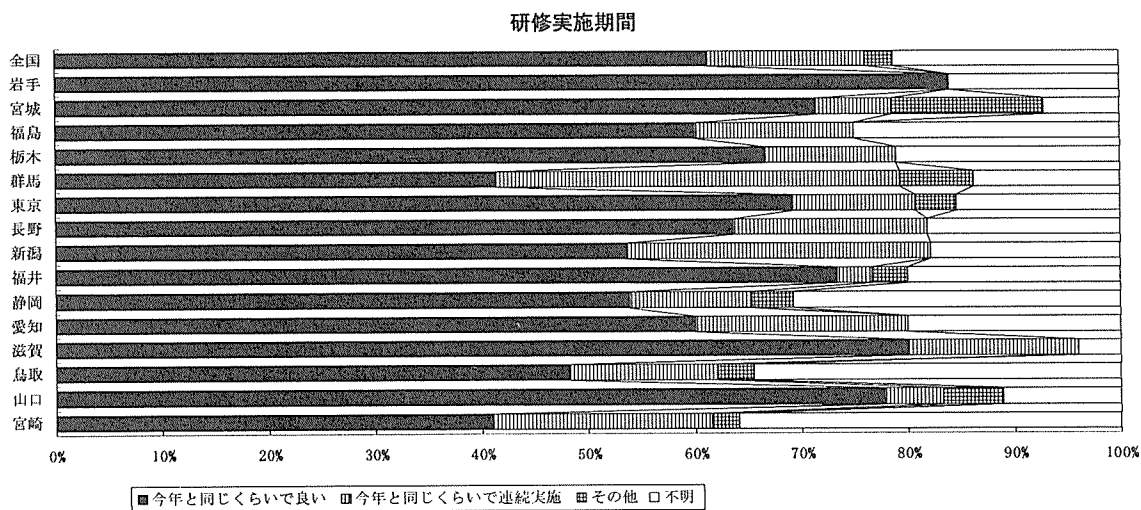
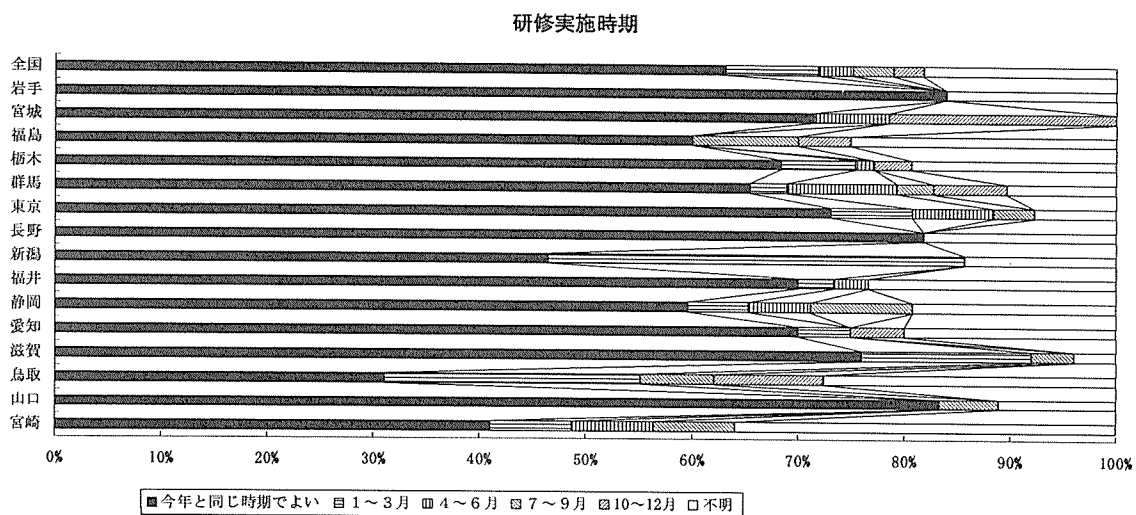
もちろん、この場合のマネジメントとは、中小企業経営ノウハウの取得、といったものよりは、小規模業態が置かれている位置の確認や今後の事業的な展開を考えるための指針を得たい、といった要望であるように思われる。

地域別に「施工・技術」希望が高い地域を見ると、栃木32.6%、岩手32.1%、鳥取30.4%の順であるが、「経営」と「営業」希望の高い地域を見ると、山口43.6%、新潟37.3%、滋賀37.1%、福井33.9%、宮崎33.3%、東京31.6%の順となっている。



## 11. 研修実施時期と期間

研修の実施時期は、全国平均では「今年と同じ時期でよい」が63.1%（前年度75.8%）と最も高い。また、研修期間でも「今年とおなじくらいでよい」が61.2%（前年度70.8%）となっている。また、研修曜日の希望では全国平均では「土日以外」が36.2%（前年度33.3%）であり、「土日がよい」が25.8%（前年度35.5%）となっており、「土日以外」を望む受講者が増加していることがわかる。



性別	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
男	84.0%	64.3%	70.0%	94.7%	93.1%	96.2%	90.9%	100.0%	90.0%	84.6%	100.0%	96.0%	96.6%	100.0%	97.4%	91.5%
女	12.0%	35.7%	0.0%	1.8%	6.9%	3.8%	9.1%	0.0%	6.7%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
不明	4.0%	0.0%	30.0%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	9.6%	0.0%	4.0%	3.4%	0.0%	2.6%	4.3%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

年齢	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
10代	0.0%	0.0%	0.0%	8.8%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	2.8%
20代	20.0%	35.7%	15.0%	36.8%	27.6%	7.7%	9.1%	10.7%	33.3%	9.6%	50.0%	20.0%	0.0%	5.6%	12.8%	19.9%
30代	16.0%	14.3%	15.0%	10.5%	24.1%	38.5%	36.4%	10.7%	13.3%	3.8%	15.0%	12.0%	13.8%	11.1%	12.8%	14.7%
40代	48.0%	35.7%	15.0%	24.6%	27.6%	11.5%	36.4%	67.9%	30.0%	36.5%	10.0%	0.0%	24.1%	44.4%	33.3%	29.8%
50代	12.0%	7.1%	10.0%	10.5%	10.3%	26.9%	0.0%	3.6%	6.7%	23.1%	5.0%	12.0%	37.9%	33.3%	12.8%	14.9%
60代以上	0.0%	7.1%	10.0%	3.5%	10.3%	11.5%	9.1%	3.6%	0.0%	17.3%	15.0%	0.0%	17.2%	5.6%	7.7%	8.0%
不明	4.0%	0.0%	35.0%	5.3%	0.0%	3.8%	0.0%	3.6%	6.7%	9.6%	5.0%	56.0%	6.9%	0.0%	12.8%	9.9%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

勤務先業種（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
工務店（従業員9名以内）	7.7%	28.6%	15.0%	44.1%	41.9%	67.9%	9.1%	35.7%	16.7%	21.2%	15.0%	36.0%	25.8%	10.0%	50.0%	31.4%
工務店（従業員10名以上）	23.1%	7.1%	20.0%	1.7%	6.5%	0.0%	27.3%	3.6%	36.7%	5.8%	0.0%	12.0%	6.5%	45.0%	6.8%	11.2%
大工職	15.4%	0.0%	5.0%	42.4%	29.0%	10.7%	9.1%	14.3%	0.0%	30.8%	60.0%	0.0%	51.6%	0.0%	15.9%	22.3%
木材・製材業	3.8%	0.0%	10.0%	3.4%	12.9%	0.0%	27.3%	10.7%	16.7%	13.5%	20.0%	36.0%	3.2%	10.0%	0.0%	9.8%
設計事務所	7.7%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	9.1%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	4.5%	3.0%
プレハブ住宅業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.2%
建材業	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
建築設備業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
不動産業	0.0%	7.1%	5.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	2.3%	1.4%
その他	42.3%	42.9%	15.0%	3.4%	6.5%	0.0%	9.1%	35.7%	20.0%	15.4%	0.0%	16.0%	9.7%	15.0%	20.5%	15.5%
不明	0.0%	0.0%	30.0%	5.1%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	6.7%	3.8%	5.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	3.6%
回答数	26	14	20	59	31	28	11	28	30	52	20	25	31	20	44	439

従事している仕事（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
経営	9.7%	17.6%	8.6%	9.6%	19.7%	15.3%	5.6%	19.3%	7.5%	17.5%	18.2%	10.8%	13.1%	18.4%	24.1%	15.0%
施工・技能	22.6%	11.8%	22.9%	59.0%	27.3%	25.4%	11.1%	22.8%	14.9%	25.8%	42.4%	8.1%	32.8%	2.6%	27.8%	26.9%
工事管理	12.9%	17.6%	17.1%	6.0%	12.1%	18.6%	33.3%	8.8%	23.9%	14.4%	12.1%	13.5%	19.7%	21.1%	15.2%	15.3%
営業・販売	6.5%	0.0%	8.6%	3.6%	10.6%	1.7%	11.1%	10.5%	14.9%	12.4%	6.1%	21.6%	6.6%	15.8%	2.5%	8.7%
設計	22.6%	11.8%	11.4%	10.8%	18.2%	20.3%	5.6%	14.0%	16.4%	8.2%	12.1%	18.9%	16.4%	15.8%	12.7%	14.3%
積算	0.0%	0.0%	8.6%	4.8%	9.1%	15.3%	16.7%	7.0%	10.4%	7.2%	0.0%	5.4%	8.2%	18.4%	6.3%	8.0%
調査・企画	0.0%	5.9%	0.0%	1.2%	3.0%	3.4%	11.1%	3.5%	3.0%	4.1%	3.0%	2.7%	0.0%	7.9%	2.5%	3.0%
教育・行政	12.9%	0.0%	8.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	7.5%	6.2%	0.0%	16.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%
その他	0.0%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	7.0%	1.5%	2.1%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%	2.6%
不明	12.9%	5.9%	14.3%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	2.1%	3.0%	2.7%	3.3%	0.0%	1.3%	2.7%
回答数	31	17	35	83	66	59	18	57	67	97	33	37	61	38	79	778

取得している資格（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
一級技能士	7.7%	0.0%	8.0%	7.5%	22.5%	12.2%	0.0%	13.2%	0.0%	14.5%	5.0%	0.0%	29.2%	8.7%	20.4%	12.3%
二級技能士	19.2%	0.0%	4.0%	16.4%	7.5%	12.2%	0.0%	5.3%	6.1%	0.0%	10.0%	0.0%	16.7%	8.7%	11.1%	9.0%
木造建築士	0.0%	0.0%	4.0%	1.5%	2.5%	4.9%	0.0%	0.0%	3.0%	3.6%	5.0%	0.0%	12.5%	0.0%	5.6%	3.4%
一級建築士	11.5%	0.0%	4.0%	3.0%	5.0%	22.0%	27.3%	13.2%	6.1%	12.7%	5.0%	11.1%	2.1%	21.7%	7.4%	9.2%
二級建築士	19.2%	0.0%	24.0%	13.4%	32.5%	26.8%	18.2%	28.9%	21.2%	7.3%	20.0%	33.3%	27.1%	21.7%	24.1%	21.5%
資格取得準備中	23.1%	0.0%	0.0%	16.4%	7.5%	0.0%	9.1%	7.9%	21.2%	14.5%	0.0%	3.7%	2.1%	0.0%	5.6%	8.4%
その他	0.0%	0.0%	20.0%	1.5%	12.5%	14.6%	9.1%	15.8%	9.1%	9.1%	5.0%	11.1%	6.3%	21.7%	9.3%	9.4%
なし	19.2%	0.0%	12.0%	37.3%	10.0%	7.3%	27.3%	13.2%	30.3%	21.8%	50.0%	40.7%	0.0%	13.0%	13.0%	19.3%
不明	0.0%	100.0%	24.0%	3.0%	0.0%	0.0%	9.1%	2.6%	3.0%	16.4%	0.0%	0.0%	4.2%	4.3%	3.7%	7.5%
回答数	26	14	25	67	40	41	11	38	33	55	20	27	48	23	54	522

あなたの現在の立場

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
親の跡を継ぐ二世	4.0%	0.0%	10.0%	45.6%	46.7%	46.2%	45.5%	28.6%	18.8%	28.8%	35.0%	32.0%	23.3%	10.5%	12.8%	27.6%
二世ではないが会社の跡を継ぐ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.8%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	3.3%	5.3%	0.0%	1.4%
二世を助けていく営業幹部	0.0%	7.1%	0.0%	7.0%	10.0%	3.8%	0.0%	7.1%	6.3%	3.8%	5.0%	8.0%	3.3%	10.5%	10.3%	5.8%
二世を助けていく技術・技能幹部	0.0%	7.1%	10.0%	0.0%	13.3%	3.8%	0.0%	3.6%	6.3%	15.4%	5.0%	4.0%	6.7%	10.5%	0.0%	5.8%
従業員	56.0%	42.9%	35.0%	29.8%	10.0%	7.7%	45.5%	17.9%	50.0%	11.5%	25.0%	40.0%	16.7%	42.1%	33.3%	28.5%
その他	32.0%	42.9%	15.0%	8.8%	13.3%	34.6%	9.1%	35.7%	15.6%	32.7%	30.0%	12.0%	26.7%	15.8%	20.5%	22.4%
不明	8.0%	0.0%	30.0%	8.8%	3.3%	0.0%	0.0%	3.6%	3.1%	7.7%	0.0%	0.0%	20.0%	5.3%	23.1%	8.4%
回答数	25	14	20	57	30	26	11	28	32	52	20	25	30	19	39	428

取り扱っている建築構造の種類（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
木造建築物（軸組）	57.7%	57.1%	54.5%	88.1%	75.7%	68.4%	61.1%	75.0%	56.8%	60.0%	78.3%	69.2%	84.4%	50.0%	71.1%	68.8%
木造建築物（2×4工法）	0.0%	0.0%	9.1%	3.4%	10.8%	5.3%	0.0%	3.6%	2.7%	4.6%	0.0%	7.7%	3.1%	38.5%	4.4%	6.0%
プレハブ建築物	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
鉄筋コンクリート建築物	7.7%	0.0%	4.5%	0.0%	5.4%	7.9%	11.1%	0.0%	10.8%	4.6%	0.0%	0.0%	3.1%	7.7%	4.4%	4.4%
鉄骨建築物	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.1%	18.4%	16.7%	0.0%	13.5%	12.3%	13.0%	3.8%	3.1%	3.8%	6.7%	7.5%
その他	3.8%	7.1%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	7.1%	8.1%	4.6%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	3.0%
不明	23.1%	35.7%	27.3%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	8.1%	13.8%	4.3%	19.2%	6.3%	0.0%	8.9%	9.9%
回答数	26	14	22	59	37	38	18	28	37	65	23	26	32	26	45	496

1年間に取り扱った住宅棟数（軸組）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
5棟以下	36.0%	28.6%	25.0%	56.1%	58.6%	73.1%	27.3%	46.4%	20.0%	44.2%	60.0%	4.0%	58.6%	11.1%	38.5%	42.1%
6～10棟	12.0%	7.1%	10.0%	19.3%	24.1%	3.8%	0.0%	10.7%	26.7%	3.8%	5.0%	32.0%	13.8%	22.2%	23.1%	15.1%
11～15棟	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	10.0%	1.9%	5.0%	4.0%	3.4%	0.0%	5.1%	2.8%
16～20棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%	27.3%	0.0%	10.0%	1.9%	0.0%	8.0%	0.0%	5.6%	7.7%	3.5%
21～25棟	4.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	5.6%	0.0%	1.4%
25～30棟	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.9%
31棟以上	8.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	17.9%	3.3%	5.8%	5.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	4.5%
0又は不明	40.0%	50.0%	45.0%	21.1%	10.3%	19.2%	27.3%	25.0%	30.0%	42.3%	25.0%	52.0%	20.7%	22.2%	25.6%	29.6%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

1年間に取り扱った住宅棟数（2×4）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
5棟以下	0.0%	7.1%	10.0%	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%	3.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	2.6%	2.1%
6～10棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
11～15棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.5%
16～20棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
21～25棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.7%
25～30棟	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
31棟以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	2.6%	1.4%
0又は不明	100.0%	92.9%	90.0%	98.2%	89.7%	100.0%	100.0%	96.4%	96.7%	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	94.9%	95.0%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

研修全体の評価

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
大変良かった	32.0%	14.3%	20.0%	33.3%	37.9%	15.4%	36.4%	35.7%	6.7%	19.2%	10.0%	8.0%	13.8%	16.7%	15.4%	21.5%
良かった	8.0%	42.9%	55.0%	52.6%	41.4%	69.2%	63.6%	53.6%	73.3%	59.6%	85.0%	84.0%	58.6%	72.2%	69.2%	58.9%
あまり良くなかった	4.0%	42.9%	0.0%	7.0%	10.3%	11.5%	0.0%	7.1%	13.3%	11.5%	0.0%	4.0%	13.8%	0.0%	12.8%	9.2%
良くなかった	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.7%
不明	56.0%	0.0%	25.0%	5.3%	6.9%	3.8%	0.0%	3.6%	6.7%	9.6%	5.0%	4.0%	13.8%	11.1%	0.0%	9.7%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423



研修全体の評価が「あまり良くなかった」「良くなかった」と答えた理由（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
内容が抽象的でよく分からな	0.0%	36.4%	0.0%	12.5%	20.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	17.5%
既に知っていたことが多い	100.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	11.1%
期待していたものと内容が違った	0.0%	27.3%	0.0%	12.5%	60.0%	66.7%	0.0%	100.0%	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%	60.0%	100.0%	33.3%	41.3%
内容が難しすぎた	0.0%	18.2%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
その他	0.0%	9.1%	0.0%	12.5%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.9%
不明	0.0%	0.0%	100.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	11.1%
回答数	1	11	5	8	5	3	0	2	7	7	0	2	5	1	6	63

来年度もこの研修を希望するか

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
希望する	88.0%	100.0%	75.0%	91.2%	96.6%	96.2%	72.7%	89.3%	83.3%	92.3%	80.0%	92.0%	75.9%	94.4%	69.2%	86.8%
希望しない	8.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	3.8%	27.3%	10.7%	10.0%	0.0%	15.0%	8.0%	6.9%	0.0%	17.9%	6.6%
不明	4.0%	0.0%	25.0%	5.3%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	7.7%	5.0%	0.0%	17.2%	5.6%	12.8%	6.6%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

今後の研修テーマの希望（複数回答）

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
経営	10.7%	10.7%	11.9%	8.7%	14.7%	15.8%	4.8%	22.0%	23.2%	19.4%	10.8%	16.1%	8.7%	30.8%	19.3%	15.8%
営業	0.0%	14.3%	11.9%	9.8%	16.0%	15.8%	14.3%	15.3%	10.7%	17.3%	10.8%	21.0%	13.0%	12.8%	14.0%	13.8%
設計	10.7%	21.4%	7.1%	7.6%	4.0%	12.3%	9.5%	8.5%	8.9%	8.2%	10.8%	21.0%	8.7%	7.7%	5.3%	9.5%
補算	10.7%	3.6%	7.1%	6.5%	10.7%	12.3%	9.5%	8.5%	7.1%	6.1%	21.6%	0.0%	10.9%	5.1%	12.3%	8.4%
建材・設備	10.7%	7.1%	9.5%	7.6%	8.0%	7.0%	23.8%	6.8%	8.9%	10.2%	0.0%	6.5%	13.0%	10.3%	7.0%	8.5%
施工技術等の実習	32.1%	25.0%	26.2%	32.6%	16.0%	17.5%	23.8%	22.0%	14.3%	19.4%	18.9%	12.9%	30.4%	12.8%	21.1%	21.3%
関係法律	0.0%	3.6%	0.0%	13.0%	6.7%	3.5%	0.0%	5.1%	5.4%	4.1%	10.8%	4.8%	6.5%	5.1%	8.8%	5.9%
資金・融資	0.0%	7.1%	7.1%	6.5%	10.7%	5.3%	9.5%	3.4%	7.1%	6.1%	5.4%	9.7%	4.3%	5.1%	7.0%	6.5%
その他	0.0%	3.6%	2.4%	4.3%	12.0%	8.8%	4.8%	5.1%	8.9%	7.1%	8.1%	6.5%	2.2%	7.7%	3.5%	6.1%
不明	25.0%	0.0%	11.9%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.7%	1.6%	0.0%	2.6%	1.8%	2.1%
回答数	28	28	42	92	75	57	21	59	56	98	37	62	46	39	57	797

研修の実施時期の希望

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
今年と同じ時期でよい	84.0%	71.4%	60.0%	68.4%	65.5%	73.1%	81.8%	46.4%	70.0%	59.6%	70.0%	76.0%	31.0%	83.3%	41.0%	63.1%
1～3月	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%	3.4%	7.7%	0.0%	39.3%	3.3%	5.8%	5.0%	16.0%	24.1%	0.0%	7.7%	8.7%
4～6月	0.0%	7.1%	0.0%	1.8%	10.3%	7.7%	0.0%	0.0%	3.3%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	3.3%
7～9月	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	3.4%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%	0.0%	4.0%	6.9%	5.6%	7.7%	3.8%
10～12月	0.0%	21.4%	5.0%	3.5%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	10.3%	0.0%	0.0%	2.8%
不明	16.0%	0.0%	25.0%	19.3%	10.3%	7.7%	18.2%	14.3%	23.3%	19.2%	20.0%	4.0%	27.6%	11.1%	35.9%	18.2%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

研修実施期間の希望

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
今年と同じくらいが良い	84.0%	71.4%	60.0%	66.7%	41.4%	69.2%	63.6%	53.6%	73.3%	53.8%	60.0%	80.0%	48.3%	77.8%	41.0%	61.2%
今年と同じくらいで連続実施	0.0%	7.1%	15.0%	12.3%	37.9%	11.5%	18.2%	28.6%	3.3%	11.5%	20.0%	16.0%	13.8%	5.6%	20.5%	14.9%
その他	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	6.9%	3.8%	0.0%	0.0%	3.3%	3.8%	0.0%	0.0%	3.4%	5.6%	2.6%	2.6%
不明	16.0%	7.1%	25.0%	21.1%	13.8%	15.4%	18.2%	17.9%	20.0%	30.8%	20.0%	4.0%	34.5%	11.1%	35.9%	21.3%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

研修実施曜日の希望

	岩手	宮城	福島	栃木	群馬	東京	長野	新潟	福井	静岡	愛知	滋賀	鳥取	山口	宮崎	全国
大安・吉日は避ける方が良い	16.0%	0.0%	20.0%	17.5%	20.7%	7.7%	9.1%	14.3%	0.0%	30.8%	15.0%	8.0%	34.5%	16.7%	12.8%	16.5%
土曜日・日曜日が良い	0.0%	64.3%	10.0%	35.1%	34.5%	65.4%	9.1%	21.4%	3.3%	25.0%	25.0%	12.0%	34.5%	11.1%	25.6%	25.8%
土曜日・日曜日以外が良い	68.0%	21.4%	40.0%	22.8%	34.5%	11.5%	54.5%	35.7%	66.7%	25.0%	40.0%	72.0%	10.3%	61.1%	25.6%	36.2%
その他	0.0%	14.3%	5.0%	3.5%	3.4%	0.0%	9.1%	10.7%	3.3%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	5.1%	3.3%
不明	16.0%	0.0%	25.0%	21.1%	6.9%	15.4%	18.2%	17.9%	26.7%	19.2%	20.0%	4.0%	20.7%	11.1%	30.8%	18.2%
回答数	25	14	20	57	29	26	11	28	30	52	20	25	29	18	39	423

## 第3章 研修事業の問題点の検討

### 1. 研修事業の継続性

補助事業である本研修事業は、平成7年度をもって終了することとなっているが、本事業が既に4年間にわたる実績を持ち、受講者からの評価も高く、地域における木造建築担い手たちの重要な情報・知識吸収の場として定着しはじめている点からも、何らかの形での継続性が求められているといえよう。

そのためには、本事業成立の背景である木材産業と木造住宅産業との連携強化という視点から、新たな時代的な要請に対応した木造住宅の供給のための担い手育成をどのように展開していくのか、というプログラムの検討が必要となっている。

そのためにもバックグラウンドとなる木材・住宅連携を明快とするような息の長い「地域住宅・木材センター」事業的な部分での事業づくりの一環としての研修事業も今後必要とされてくるといえよう。

### 2. 研修事業の意味

木造建築担い手養成といっても様々なアプローチの方法が存在する。本事業では、当初、若者を対象とした「未熟練」技能者のステップアップを目的とするような部分も存在したが、現実には研修をすすめる中で、アンケート結果にもあるように、むしろ現在の木造住宅を担う人々が積極的に参加していることがわかる。また、当初は技能者を中心として研修事業は想定されていたが、これも技能者だけではなく、経営者や管理者などの参加も多い（但し、小規模な業態が多いためにこのいずれにも該当する聴講者は存在する）。

そうした意味では、むしろ現在の木造住宅を担う人々が積極的にこの研修事業に参加しているということができる。

その意味で、本事業は明確に地域に存在する木造住宅のあらゆる担い手のための研修、という形になってきた、ということができる。

ある意味では参加対象者を絞り切れていない、という見方もできるが、むしろ、現実的には多様な木造住宅の担い手たちが、切実にそうした研修受講を望んでいた、と考えるべきであろう。

そこで、本事業の継続を考える場合、より積極的な形でこの研修を位置づけ、地域における多様な木造住宅の担い手たちに対して、一定の知識・情報を提供する木材・住宅研修センターとしての役割を担うべき、ということができよう。

### 3. 研修事業の方向性

そのためには、地域における木材・住宅連携を中心としつつ、地域受講

者ニーズに柔軟に対応しつつも、年毎に啓蒙普及上の「キャンペーン」的な講座を中心とした研修事業を展開することが望ましい。

例えば、平成7年1月17日に発生した阪神大震災は、木造住宅に対して大きな見直し機運を与えた。即ち、木造住宅に対する耐震施工等の問題である。また、木造住宅に対する大きな誤解も生じている中で現業の木造住宅の担い手に対して、設計・施工の考え方のみならず住まい手に対する理論武装等の必要性も高まっている。

そこで、この耐震設計・施工知識の啓蒙を中心としてカリキュラム編成を行う、といった方法が考えられる。

つまり、トピックス講座＋地域受講者要望講座といった形でのカリキュラム編成を今後想定していく必要がある。

これが、研修型の方向性とならざるを得ない、と考えられる。

#### 4. 地域主催者の役割

本事業のこれまでを見ると、本事業の意義を深く認識した地域主催者と地域行政者が存在しているところにより積極的な展開を見ることができ

る。その意味では、やはり地域において本事業の受け皿となり、地域における担い手研修のニーズを吸収し、それを企画化していくプロデューサー的な人材が不可欠である。

そうした人たちが、絶えず県行政のアンテナに触れるという可能性は実はそれほど高くない。その意味では、受け皿としての組織は小さいが、地域木造にとって真に波及効果の高いことを実施している組織・団体に対して、積極的に地域主催者として本事業を活用するようなあり方を検討する必要がある。また、そうした小規模な組織・団体のネットワーク化を進め、プロデューサーだけでなく、地域講師としての役割を担ってもらうような方法が必要である。この場合、ある意味で動員数は限られる部分があるので、こうした研修をさらに行政側で広報としてバックアップするようなシステムづくりもまた必要となる。

その意味では、これまでも研修の開催そのものが必ずしも「広報」されているとは言いがたい面もあり、今後これらの活動をどのように展開し、より多くの担い手たちに参加の機会を与えるのかも大きな検討課題であるといえよう。

#### 5. 波及効果

本事業が契機となって多くの地域において木造住宅の担い手の育成のための方法論検討と現実的な育成機関が成立してきている。これも本事業の波及効果といえることができる。

こうした波及効果も大きな成果ではあるが、今後さらに木材・住宅連携

という視点から考えると、例えば国産材の乾燥材普及等を行うためにも、本研修においての担い手に対する啓蒙が必要であり、そうした啓蒙活動を通して、住まい手に信頼され満足される木造住宅を供給するような環境づくりを供給者サイドにおいて整える、といった役割も本事業は積極的に担う必要がある。そうした波及効果までを想定すると本事業の役割は大きく、さらなる充実が求められよう。



## 参考資料

研修運営委員会では、若年木造建築技能者育成を主眼とした専修センター事業展開の検討のために木材側と住宅側とが強い連携を行い、産直住宅事業の展開を行っている岐阜県加子母村を訪ねた。

人口3,600人のこの村の産直住宅の特長は、村の工務店が中心となって事業を展開している点にある。

既に、東京西部に産直住宅供給の拠点も築き、着々と地歩を固めつつある。

木造住宅の担い手の養成にとって重要な事柄の一つは、地域内の住宅供給業者が自らの経営環境を良化し、それによって労働環境等が向上し、地域における若い人たちを新規参入に導くような魅力ある事業体を形成することにある。

その意味では、加子母村における産直住宅活動と「東濃ひのきの家プレカット協同組合」におけるプレカット工場の稼働は、そうした環境づくりと林住連携の良き事例として、企画運営委員会に新鮮な刺激を与えた、ということができるだろう。

それらについて以下に参考資料とし添付した。

## 参考資料 1.

### 「東濃ひのきの家」と産地・加子母村

中島 紀子

加子母村は、木の国岐阜県的美濃・飛騨と長野県の本曾の三角点にあります。

標高500～800M、面積114km<sup>2</sup>で94%が山林、そのうち半分が国有林です。

江戸時代は、尾張藩の飛地であり、神宮備林は加子母村にあるのです。木曾川水系の白川の源流であり、この夏もずっと冷たくておいしい水をふんだんに飲み浴びておりました。

昔から、桧とのかかわりの中で村の運命は決まり、今また、木材離れの中でその行先を案じられています。戦後復興の為に、たくさんの国有林が切られ、続いて伊勢湾台風で立木も倒れ、家も壊れてたくさんの木が使われました。その後、外材が入って来て値段と量、太さ、長さの点でどんどん押されて斜陽になっております。

さて、昭和50年に中央自動車道が全通し、昭和60年に中津川IC・下呂温泉間の国道が開通してから、名古屋へ2時間、大阪へ3時間、東京へ4時間で行ける様になり、24社の製材工場と6社の建築屋は、この道を走って、東は栃木県・群馬県迄、西は岡山県迄出掛けています。

桧を主に杉・樅・松・栗・榎・榎・榎等の東濃産材をふんだんに使い、土壁を塗り、大工が十分手間をかけて作る家造りがお客様の信頼を得て、次から次へと評判が伝わり、注文を頂いております。

60～80万円/坪が主流で、中には200万円/坪の豪邸があったりもして、いわゆる安い家は、今の所一軒もありません。

又、仕事が増えるに従って、設計・監督・大工・瓦等の一連の人手不足がおこり、社長や職人の子供達が、地元の高校を出ると都会へ出て、各々勉強し修業して加子母村へ帰り、今は親子で建築業や製材業に励んでいます。

このメンバーで、昭和63年8月に東濃ひのきの家プレカット工場を操業し、今年8月に第2工場を始動して、2ラインで毎日50～60坪の家を1～2棟分刻んでおります。又、造作材の加工も専門工場を作り、すべて工場加工して、大工さんは現場での造作仕事のみに限っており、大工さんの年収1千万円も夢ではありません。

私の会社の竹本保雄棟梁は、3人の男の子がすべて大工さんになり、今年の暮れ、50歳で棟梁を長男に譲る様にしています。



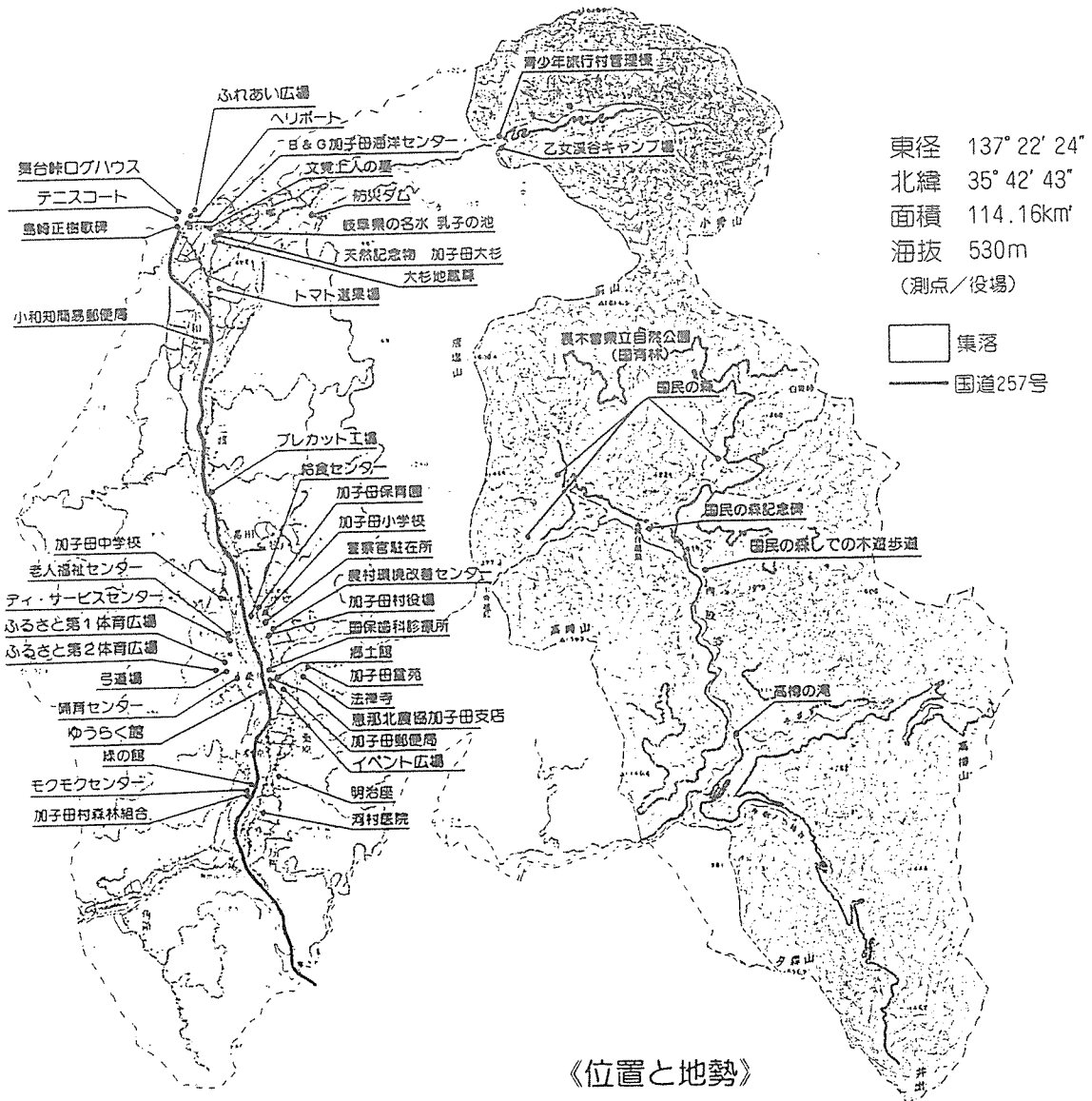
土台・柱は桧でいけますが、梁・桁の横物は、樅・松・梅等でどうにか間に合わせていますが、単価が合わなければ米松・米梅にしています。その量が多いので、この次の事業として桧の細物・端材を集成して太物を使い、桧の横物を作りたいと今研究しており、平成8年には、すべて横物も桧の家をしたいと考えています。又、建具や家具も協業化して、良い機械を入れて現場で寸法がとれたら、2～3週間の間に立派な建具や家具の建込みがすんで、完成引渡しにしたいと思っています。

材料と手間を落とさずに安い家を作る為に、プランのパターン化と、それに伴う規格化・製品化を進め、お客様の夢みた家がすぐ決まり、すぐに完成する様にしたいと考えています。

加子母村は、人口たったの3600人。東京・名古屋・大阪へは益々近くなってきています。村中皆んなで力を合わせて、銭のかからない加子母村に住んで、銭の取れる東京・名古屋・大阪で仕事をする。そして、他では出来ない木造の家を、他では出来ない安い値段で、そして、他では出来ない短い工期で、お客様に喜んでもらえる東濃ひのきの家作りに邁進して行きたいと張り切っている今日この頃です。

資料出典・「ネットワークがつくる木の住まい」第26回公開フォーラム資料  
(木造研究フォーラム)

# わたしたちの —かしも—

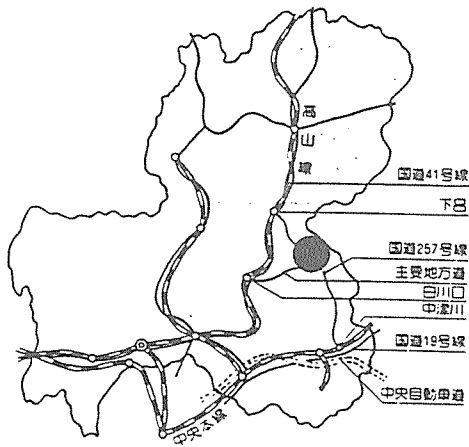


## 《位置と地勢》

加子田村は、岐阜県恵那郡の最北端、美濃飛騨・信州国境の三角頂点に位置し、概ね、東西に12.5km、南北に13km。面積114.16km<sup>2</sup>のうち94%が山林で、可住地は6%である。南は塞の神峠を境として同郡付知町。北は舞台峠を境として益田郡下呂町。東は御嶽連峰につらなる山々を越えて長野県王滝村。西は峰越しに加茂郡白川町と接し、わずかに西南にひらけて加子田川が流れ出て、加茂郡東白川村へ続いている。

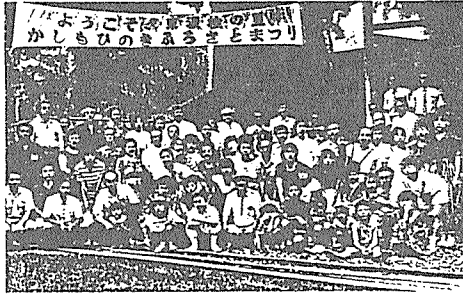
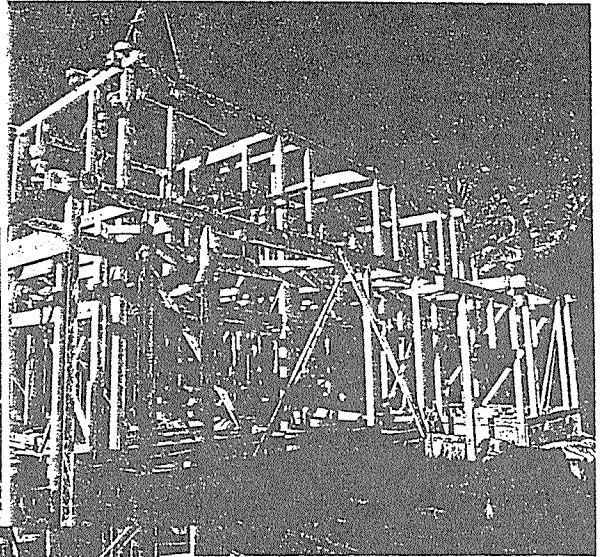
北端の山中に発し村を貫流する加子田川に、ほぼ平行して国道257号が縦貫し、沿って帯状に長い一村落を形成している。

上流の小郷集落で海拔720m、下流の角領集落で430mの北に高く南に低い村である。

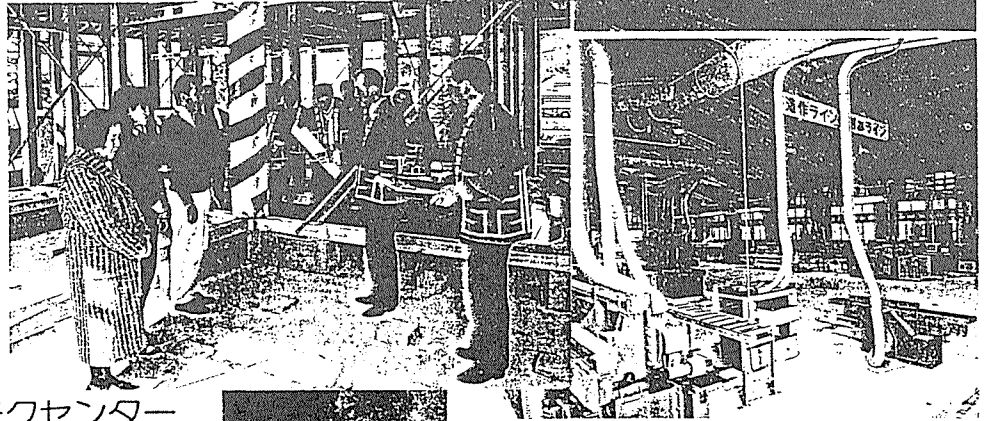


いま・村おこしの原動力ーかしも大工  
東濃ひのき産直住宅

東濃ひのきによる産直住宅は都会に住む人々に木のぬもりと加子母大工の  
誠実な施工で高い評価を得ている。村は、産業振興の立場から加子母大工  
と契約した施主に大黒柱の贈呈をし、感謝を表している。



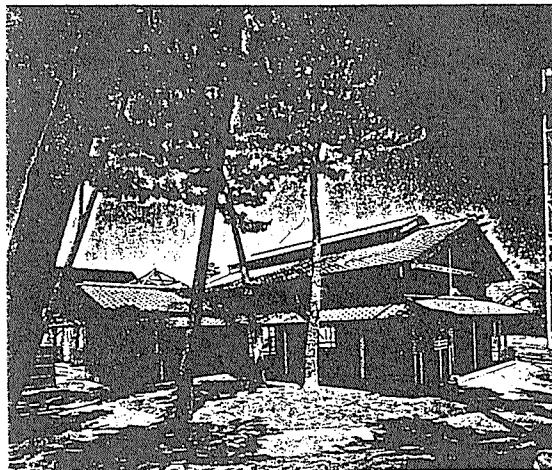
産直住宅で家を建てた  
施主家族を招待して  
かしもひのきふるさと  
まつり



R257のオアシスモクモクセンター

木材と木工品が主産品の村は、資源を村で商品化し直  
接消費者に提供したい…。その願いから生れた製品の  
直売場。R257を通過する人なら一度は訪れる。森林組  
合の直営店。

大工の技術を現場で発揮するため、工場での前加工の機械化を図る  
プレカット工場も稼働している。



かしもひのき建築組合はぎふ中部未来博に3世代住宅のパビリオンを出  
展し好評を得た。それを郷の館として村へ移築して活用している。

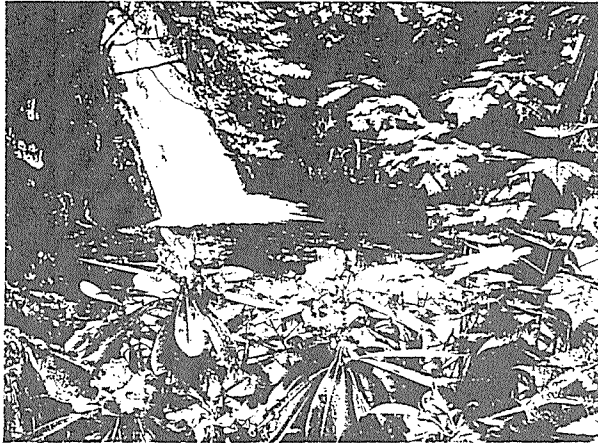


## 昔も今もひのきの加子母。

総面積の95%が山林という加子母村は、古くから裏木曾と呼ばれ良質のひのきの産地として知られてきました。“ひのき一本首一つ(停止木の令)”といわれた尾張藩時代より植林事業を行い、伊勢神宮の御料木としても使われています。現在ではこの加子母村で産出されるひのきは“東濃ひのき”と呼ばれ優れた建築材として尊重されています。また加子母村は歴史の村。現在の国道257号線はかつて南北街道と呼ばれ、神社仏閣をはじめさまざまな文化遺産があります。とくに農村歌舞伎の伝統を伝える明治座は一見に値する貴重な建造物です。

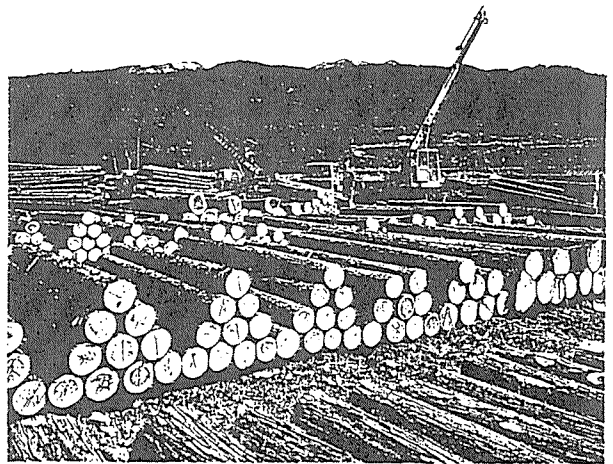
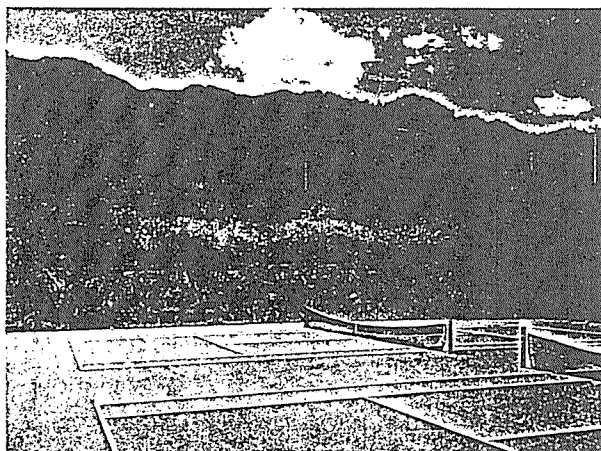
## 新しいリゾート、KASHIMO。

加子母村の美しい自然は最近とくに注目され、フィトンチッドにあふれたヘルシーリゾートとして発展しつつあります。旧神宮備林地区は、森林浴の森・日本の100選のひとつに選ばれました。舞台峠はテニスをはじめとするスポーツの文字どおりステージとなっています。清流が爽やかな乙女渓谷など、新しいリゾート基地としてのKASHIMOは、東濃ひのきの里の新しい顔でもあります。



## 建築木材の王様、ひのき。

古来よりひのきは最良の建築材と言われています。軽く、加工性に富み、耐水性、耐久性があり、曲げに強く、木目がまっすぐ。とくに柱材として優れた性質をもっています。そして木肌のもつ美しさとあの香りは私たち日本人にとってかけがえのないやすらぎを与えてくれます。



## 東濃ひのきの産地、加子母村。

加子母はひのきの産地として最適な条件を備えています。海拔約750m、朝霧のたちこめる風土は気温・湿度・日照・降水など、ひのきの育成に理想的です。しかもひのきの育成にとってほぼ北限に位置し、年輪の目のつまった良材は“東濃ひのき”と呼ばれ、最高級の建築材として使われています。また最近話題になっているのがひのきの殺菌力。お寿司屋さんのマナ板にひのきを使用するのは美しさもさることながら、雑菌の繁殖をおさえる殺菌力があるからなのです。したがって建築材としては、とりわけ虫害に強いのもうなづけます。



## いい材料といいウデが いい住まいをつくります。

加子母村は良材“東濃ひのき”の産地ですが、また伝統の飛騨の匠たちのウデも磨いてきました。自然と伝統の職人技を都市の住宅づくりに生かそうと考えたのが、加子母村と中島工務店です。育林から製材、運搬、建物の設計、施工、アフターサービスまで一貫して行なう新しい住宅づくりのシステムです。これにより流通コストは格段に安くなります。いわゆる産直システムですが、材料だけを直送する従来の方法と決定的に違うのが、職人も一緒に直送することです。つまり、建前までの刻みは、加子母村で大工たちがそれぞれの作業場で行い、その後、地元左官、畳、建具などの職人を現場に運び、組立てと仕上げを行っています。素材の良さと仕事のていねいさで“東濃ひのきの家”は多くの施主から好評を得ています。

# 住宅用材の工場完成

## 加子母 来月6日から稼働

恵那郡加子母村の東濃ひのきの家プレカット協同組合(丹羽太郎組合長)が同村内に建設していたプレカット工場が完成し、八月六日から稼働

設立に立ち上がった。完成した施設は、地元のヒノキを使った木造平屋建て方プレカット工場、乾燥室、集じんサイロからなる。工場内には横材、柱、造作、断面集材などの最新鋭機を揃え、これらは光ファイバーデータで制御・操作する。

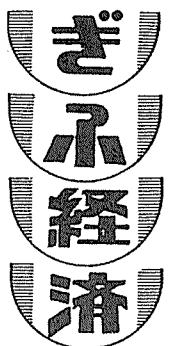
試算だと、一般住宅建材から注文住宅用まで、一日一棟、年間三百棟(約百億円)の生産能力を持つている。木造建ての工場とコンビユーター操業など業界では初め、消防可搬ポンプなども揃え、公害・防災面にも気配りした優良企業だ。

既の中島勝利工場長、中田壽明主任ら七人が試運転を始めています。スタッフはいずれもUターン組。同組合では生産能力を飛躍するには、ほかに大工さん十五人の力が必要として「古里へ帰って安定した職場で働こう」と募集している。問い合わせは同組合へ。電話0573(79)31321へ。

大工さん村に帰っておいで



「東濃ひのき住宅を生産するプレカット工場です」と語る中島勝利工場長(左)＝加子母村で

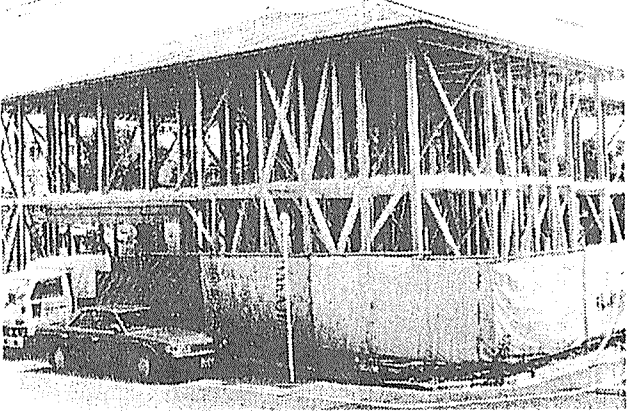


働を始める。これを機に同組合では、東濃ヒノキ住宅の願いをいっ手に引き受け、住宅建築用材の生産工場

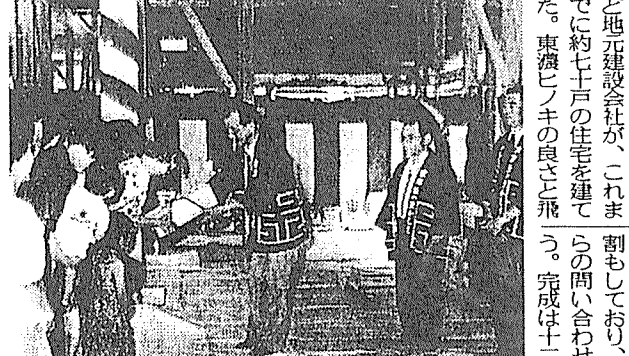
を離れている大工さんに「Uターンして働きませんか」と呼びかけている。同組合は昨年、村内の製材業、建築業、建具業など二十七社で発足。過疎化の歯止め、村の活性化、村の生産・東濃ヒ

# 人気呼ぶ「産直の家」

1991年(平成3年)7月31日(水曜日)



東濃ヒノキを使用して建築の進む超高級の加子母産直住宅



上棟式で大黒柱の贈呈をする粥川真策村長(右から3人目)＝いずれも東京都新宿区西落合で

# 東濃版

## 今度は東京に2億4500万円の豪邸

### 東濃ヒノキで建築

#### 上棟式には村長も出席

東濃ヒノキの良さを前面に出した加子母村の「産直の家」が関東や中京方面で人気を呼んでいる。この「家」は順調な歩みをみせている。東濃ヒノキの良さと飛

脚の匠(たくみ)による技術の素晴らしさで、建築主に喜ばれている。

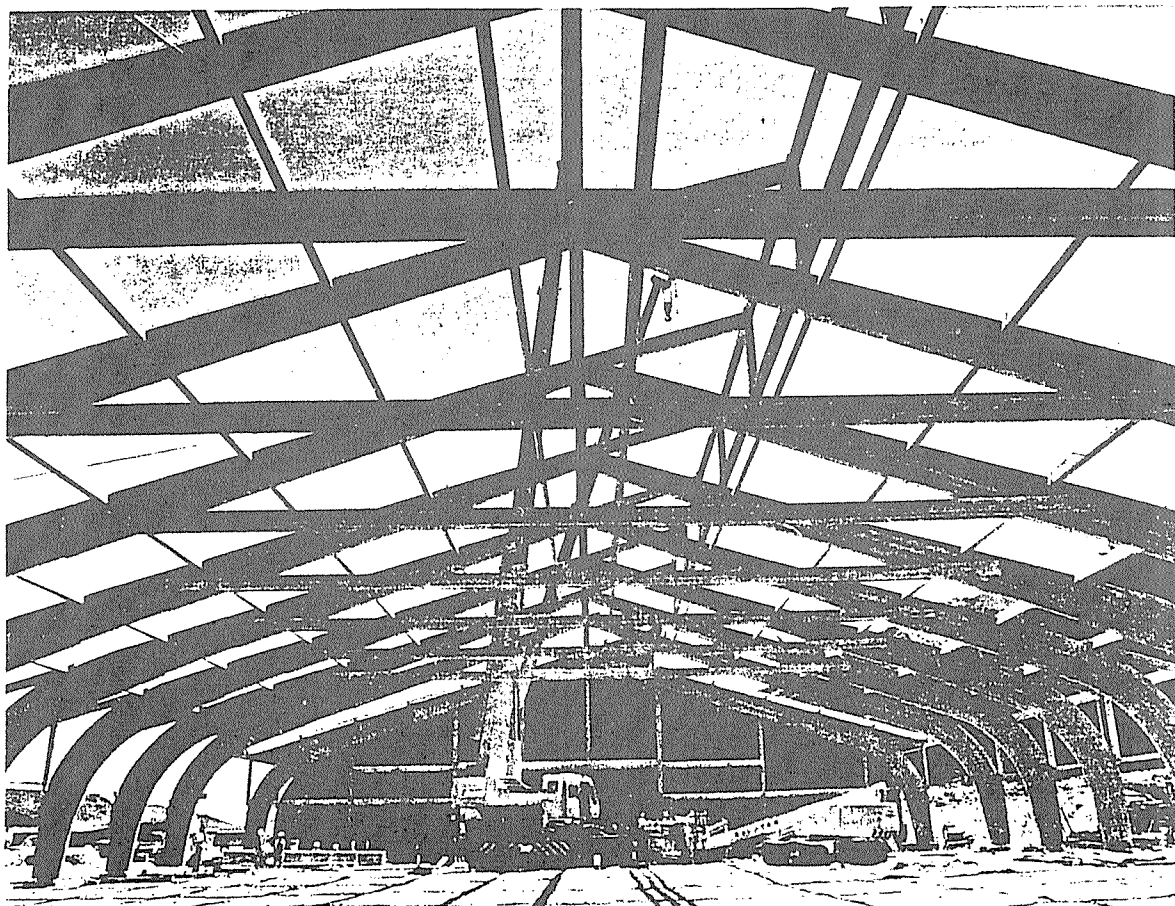
加子母村の粥川真策村長はじめ村や県の林業関係職員も出席した超高級住宅の上棟式は、二十九日に東京都新宿区西落合で行われた。建築主は近くの会社役員株木貞史さん(三三)。木造二階建て延べ約五百平方メートル。総ヒノキ造りの純和風住宅。神事の後、村からの大黒柱寄贈式があった。

西落合地区は閑静な住宅地。周囲には高級住宅が軒を連ねているが、二億五千万円近い住宅は例がなく、まだ柱組みの段階ながら周辺の人たちの注目の的。品質の良い東濃ヒノキを使った住宅はモデルハウスの役割もしており、付近の人からの問い合わせも多いという。完成は十二月末。

参考資料2. 東濃ひのきの家プレカット協同組合  
「第2プレカット工場概要」

## 第二プレカット工場

平成6年8月1日



東濃ひのきの家プレカット協同組合

〒508-04 岐阜県恵那郡加子母村2301番地  
TEL 0573-79-3132  
79-3556  
FAX 0573-79-2740  
79-3339

## ご挨拶

東濃ひのきの家プレカット協同組合  
代表理事 粥川 眞 策

昭和63年8月6日に第1工場をオープンして以来、満6年間、東濃ひのきを主体に地場産材のプレカットの仕事に従事してきました。その間ずっと考え、試行してきた次の時代のプレカット工場が本日オープンすることになり関係者一同本当に感激しております。

これからの住まいづくりは、

1. 工期を短く、
2. 値段を安く、
3. 精度を高め、
4. 良く考えて設計し、
5. 100年もつ家を造る。

でなくてはなりません。

この大変難しい条件を満足させた家造りを1棟ずつ全国津々浦々でこつこつとやってお客様がお客様を作って下さるシステムを完成させなければなりません。

山と谷、山と川、次から次への緑の海の中で生きる私たちは、山の幸木材を大切に育て、大切に使うこの地域の産業を作っていくかねばなりません。

こんな思いの中から住まい造りの仕事は生まれ、そして育ってきたのです。このプレカット工場はこれを遂行するための大きな役割を担っていると確信します。

日本古来の軸組工法をすべて機械加工することによって省力化し貴重な大工手間を造作仕事に向けて大量の住宅造りを可能にすることがプレカット工場の使命であるのです。

この度、8億円余りの林業構造改善事業の実施は国、県、村の関係者各位の多大なご指導ご支援の賜物でありまた地主さんと地元二渡区の皆様のご理解とご協力のおかげであります。

又、工事施工にあたって設計監理、建設工事施工、機械の開発、製作、据付等の担当業者の皆様の尽力のおかげであります。

ここに衷心よりお礼を申し上げてご挨拶と致します。

事業のあらまし

1. 事業名	林業構造改善事業（林産物加工整備事業）		
2. 事業主体	東濃ひのきの家プレカット協同組合		
3. 事業年度	平成5年度		
4. 設計管理	株式会社 中島工務店 設計室		
5. 工事施工	株式会社 加地工務店		
6. 機械納入	① (株) 平安コーポレーション ② 日高機械 ③ (株) 大井製作所 ④ (有) 坂本鉄工所		
7. 事業内容			
① 建物	工場棟建物	木造平屋建	1棟 2,992 m <sup>2</sup>
	倉庫棟建物	木造平屋建	1棟 1,667 m <sup>2</sup>
	集塵用建物	鉄骨2階建	1棟 31.9m <sup>2</sup>
	集塵用サイクロン室	鉄骨平屋建	1棟 47.2m <sup>2</sup>
② 機械設備			
	柱加工機	オート定規付きクロスカットソー	1台
	横架材横加工機	サンダー	1台
	横架材縦加工機	モルダ	1台
	隅木欠き加工機	研磨機	1台
	台持継手加工機	火打加工機	1台
	直角二面鉋盤	束ほぞ加工機	1台
	自動一面鉋盤	バンドソー	1台
	傾斜盤	手押し鉋盤	1台
	超仕上鉋盤	焼却炉	1基
	柱ほぞ加工機	エアード	1式
	丸太加工機	ホイスト	3基
		フォークリフト	2台
		トラック(1・5t)	1台
③ 年間加工棟数	140棟(55坪/棟)		
8. 事業費	建物及び造成(設計管理費含む)		446,105 千円
	機械設備		359,697 千円
	設計		805,802 千円
9. 財源	補助金		445,261 千円
	自己資金		360,541 千円
	計		805,802 千円
10. 組合の概要	組合員	13名	出資金 20,000 千円





## 組 合 員 名 簿

会 社 名 ・ 役 職	氏 名	摘 要
加子母村森林組合 (加子母村村長)	組 合 長 粥 川 眞 策	代表理事
株式会社 中島工務店	代表取締役 中 島 紀 子	専務理事
株式会社 辰喜建築工芸	代表取締役 大 森 辰 郎	理 事
有限会社 脇坂建築	代表取締役 脇 坂 治 男	理 事
脇 坂 工 務 店	脇 坂 紀 朗	理 事
株式会社 熊澤建築事務所	代表取締役 熊 澤 秀 雄	理 事
田 口 土 木 株式会社	代表取締役 田 口 十 一	理 事
有限会社 マルワイ製材所	代表取締役 日 下 部 豊	理 事
兼 八 林 産 有限会社	代表取締役 伊 藤 眞 八	監 事
有限会社 山中製材所	代表取締役 林 錫	監 事
有限会社 丸キ製材所	代表取締役 佐 藤 文 男	
株式会社 梅田製材所	代表取締役 梅 田 清 朗	
金子建築工業株式会社	代表取締役 金 子 一 弘	

